

250年後……

はじめに

私達は、今、肉体を持っています。肉体という形を持っています。しかし、私達の本質は意識。愛、愛のエネルギーなんです。

波動の世界がすべてでした。私達は形の世界を本物として、ずっと、ずっと、長い間、気の遠くなるような長い間、転生てんしやうを繰り返してきました。

すべて苦しい転生でした。間違った転生でした。真つ暗闇の転生でした。その中に真実は何もなかったんです。真実は心に届かなかった。

このことに、誰もこの地球上に転生してきた人達、誰一人として、心で気付いた人はいなかった。誰一人、真実を明らかにする人はいなかった。

しかし、今、こうして、私達が肉体を持っているこの三次元の中で、ようやく、ようやく、田池留吉、アルバートという真実の波動の世界と出会い、三十年の学びの時間を経て、私達は、真実の道、愛へ帰る道を、自分の心の中に見出し始めています。

だから、私達は呼び掛けます。宇宙に彷徨ひまがう私達の仲間、この三次元にやってこれなかつ

た私達の仲間と呼び掛けます。

もちろん、肉を持ってこの地球上に転生してきた意識達にも、呼び掛けています。ともに、ともに、帰ろうと。

愛、心のふるさと、私達のふるさとは愛です。私達の心のふるさとは愛でした。愛は、私達の心のふるさとでした。懐<sup>な</sup>かしい、懐かしい母の温もりの中へ、喜びの中へ、ただただ広がっていく中へ帰ってまいりましょう。

私達は、これから、二五〇年、三〇〇年かけて、この地球上に、そして宇宙に広がっている空間の中で、私達は、呼び掛けてまいります。

波動として、存在していることを、ただただ自分達の心の中で感じ合い、共鳴し合う喜びの道を、ともに歩いていきましよう。

(塩川香世)

「人生は喜びです。私は愛でした。」中からふつふつと湧いて出てきていますか。意識は喜び。ならば、肉もまた喜びです。生活は安定していますか。穏やかに生活をしていますか。喜びはパワーだと心に実感していますか。宇宙を思って瞑想、愛を思って瞑想、そして意識の流れに思いを馳はせる。そうして、日々を過ごしていけば、10年、20年、30年なんてあつという間です。そして250年も。もし出会いがあつたならば、思い出してください。250年前、確かともに学んだことを。

私達は思い出します。だから、来世は非常に楽しみです。超敏感な肉のもとで、超スピードで仕上げていきます。

(UTAの輪の中とともに学ぼう293より)

要は愛へ帰る道をしっかりと自分の中に見つけなければいいんです。その道が自分の中に見えたならば、その道を真まっ直すぐに突き進んでいきましょう。そのために今の肉があり、今の生活があり、今の環境があり、周りが整っているんです。そういうことがはっきりと感

じられます。そして、250年後に思いを馳せるとき、意識の流れに思いを馳せるとき、何とも言えない喜びが心に広がっていきます。

「ああ、私はこのために存在してきたんだ。この時を迎えるために、今までの苦しみ、間違い、すべてがあつたんだ。すべてを喜びに変えられる自分があつたんだ。」そういうふうにな自分の中に自然と伝わってきます。

愛へ帰る道を自分の中に見つけるために、どれだけ学びを進めてきたでしょうか。学びはそのためにあります。愛へ帰る道を自分の中に見つける、そのことに専念してください。愛へ帰る道を見つけたならば、その道を真っ直ぐに、ただただひたすら真っ直ぐに突き進んでいく喜びを心に広げていくこと、それが私達の人生でした。私達は、そうです。そのために人生がありました。何億年と転生を繰り返してきたけれど、愛へ帰る道を見つめるための人生、転生でした。そう心で本当に分かったならば、「たったひとつ真実、やっと、やっと出会った」ということが、本当にあなたの心に染み渡っていくでしょう。

(UTAの輪の中とともに学ぼう294より)





ともに、ともに行こう。ともに、ともに、みんな、みんないっしょにひとつになって行こう。そんな思いが田池留吉の世界から伝わってきます。

どうでしょうか。皆さん。それぞれの環境、それぞれの思い、それぞれの考えがあります。どうでしょうか。今の肉、肉の思いを少しずつでも弱めて、ただ一点、心を合わせていくください。田池留吉が伝えてくれたこと、田池留吉の世界、愛の世界、自分の中の愛に素直に、本当に真摯<sup>しんし</sup>に向き合っていきましょう。

田池留吉から伝えられたことを、素直にしつかりと実践していく今世の残りの時間としていきましょう。

今の肉を持つてこの学びに集えたことを心から喜んでいってください。心から喜び、そして250年後にどうぞ繋<sup>つな</sup>いでいってください。その間に一回、あるいは二回、それ以上の転生<sup>てんしょう</sup>を重ねていくでしょう。しかし、その中で苦しい、悲しい、辛い<sup>つら</sup>い、怒り、色々な闇の思いをどうぞ、どうぞ、田池留吉のもとに帰してくださいさるようお願いします。

難しいです。難しいですけど、そうするより他に方法はありません。私達が次元を超えていくためには、肉を離すその瞬間まで、そして、本当は肉を持たないその間、しっかりと田池留吉、お母さんのほうに心を向けて、ただただ喜びと温もりの中にあった自分に、

心を馳<sup>は</sup>せることをしていかなければなりません。難しい作業を、私達は自分に課しています。しかし、それは喜びだからです。本来の自分に帰るために、喜びの道を歩いてまいりましょう。

ともに、ともにひとつ。ともに、ともに行こう。その呼び掛けを田池留吉がしてくれました。だから、もちろん、私も、ともにともに行こうと、ともにひとつと呼び掛けてまいります。ともに、ともにひとつになって、愛へ、愛へ。宇宙をどんどんどんどん進んでいきましょう。宇宙は私達の帰るふるさと。あのふるさとへ、心をひとつにして帰ってまいりましょう。

(UTAの輪の中でともに学ぼう 362より)

ンゼルス、アラバマ等にお住まいの方々、日本からも多くの方々が集い、毎日家の一階の広間でセミナーが開かれました。

それは、それは忙しい毎日でした。その後、セミナーはニュージャージーのホテルや、マンハッタンのミッドタウンのホテル、ハーレムのシルビアレストラン、ソーホーの富田さんのホテル等で開かれました。日本から学びの友が大勢参加されたのも懐かしく思い出しています。

その間、澤田さんや、ニュージャージーの家に住んでくれたマリちゃん、ヨシさん、シゲちゃん、ケンジ、その他の当時二十代の若者の協力でセミナーも日常も無事に過ごせたことがありがたく、楽しさとともにうれしい思い出になりました。このように思い出す機会を頂きまして本当にありがとうございました。そして、今は、来世ニュージャージーに転生できることを思いながら学んでいきたいと思っています。



お世話になったシルビアレストランのシルビア・ウッズさん(2012年逝去)



エッジウォーターの久保邸があったあたりは、現在、私有地で立ち入り禁止になっていました。





私の十代の頃、我が家の前にアメリカ人が住んでいました。その影響もあって子供の時からアメリカに行きたいという思いもつので、やっと実現したニューヨーク行き。その時は、ほとんど知らない人たちとツアーで、マンハッタンを見学、ミッドタウン、カーネギーホール、ミュージアム、ハーレム、ソーホー、チャイナタウンと見るもの聞くもの、すべてが楽しいだけでした。

ワシントンブリッジを渡ればNYのハーレム。その後、セミナーに参加するようになった私は、白浜のセミナーで田池先生からニュージャージーのセミナーのお話を頂き、又、ニューヨークに行けるとばかりに引き受けました。

今度は遊びじゃない。行って何をするか、一週間の滞在の計画を考えました。以前、旅行で出会った人に会おうと思って、澤田敏夫さんに会い、そしてマンハッタンのツアーコンダクターの富田さんに会うことにしました。この出会いでセミナーは澤田さんに最初から最後までお世話になりました。日本から来る学びの友が次々と来られ、観光で富田さんの案内でハーレムに行きました。当時、「ハーレムに行く」などと言うと、とても信じてもらえない時代でしたが、皆さんに大変お世話頂いたと振り返っています。

そして田池先生から仰せつかったニュージャージーでの学びの場として、小さな家が見つかりました。森の中の家の前を流れるハドソン川を眺めながら、ワシントンブリッジ、前方にニューヨークのマンハッタン、ここで学ぶ機会があるんだと、私は、うれしさいっぱい日本に戻り田池先生に報告しました。その後、田池先生・陽子さんが来てくださり、お隣の板倉さんの家に泊まりながらニューヨークに住んでいる方やシカゴ、ロサ



ハドソン川を行く消防艇、対岸はニューヨーク（ワシントンブリッジから撮影）。

二五〇年後についてお送りください。

(2019年10月)

葉沖にあります。両者とも東京という大都市のすぐ近くです。大都市近辺に二つのプレート三重合点、こんな場所は世界でも存在しないと思います。

さてNY、NJはどうでしょうか？調べてみると日本にも来ている北アメリカプレートのかかなり内側に位置しています。一番近いプレートの境目が大西洋の真ん中で約 3,000km、反対側はアメリカ西海



太古からの岩盤の上に出来た都市

岸沿いで約 4,000km で、国内に境目がある日本とは比較にならないほど火山や大地震の影響を受けづらいことが分かります。しかも NY のマンハッタン<sup>マンハッタン</sup>の地盤は、かつて地球に一つの大陸しかなかった時代に造られたものであると考えられ、強固でしかも地面に近い<sup>地面に近い</sup>ため、彼の高層ビル達を支える大きな役割を果たしていると言われていいます。肉で考えても NY、NJ が 250 年間存在し続ける可能性は高いなと思います。マンハッタンにロックフェラー・センターというのがあるのですが、それがそっくりそのまま 250 年後にも残っているかも知れません。実は数年前にここの前を通ったのですが、今でも何か妙に印象に残っています。もしかしたら 250 年後、ここで皆さんとまたお会いできるかも知れませんね。

ところで蛇足ながら私が現在住んでいるアメリカ西海岸<sup>西海岸</sup>はどうなるか考えてみました。西海岸沿いに北アメリカと太平洋プレート<sup>太平洋プレート</sup>の境目が存在しています。条件としては日本とほとんど変わらない、まあ少しマシかなというぐらいでしょうか？ オレゴン沿岸にはもう一つ小さなプレート<sup>小さなプレート</sup>があって、北アメリカ、太平洋プレートに挟まれています。そこで最近頻繁に地震が発生しているようです。まあ肉で考えてもよく分からないのですが、250 年後にそっくりそのまま存在している確率は高くないと思います。

かつて地震関係の仕事をしていたので、日本そして現在住んでいるアメリカ西海岸のオレゴン<sup>ちかく</sup>の地殻についてはある程度の知識はあったのですが、アメリカ東海岸、特に NY、NJ の方についてはほとんど知識がありませんでした。それを以前に桐生さんに指摘されて調べてみたことがあるのですが、なんと NY、NJ はプレートのかかなり内側<sup>くら</sup>にあって、日本とは比べ物にならないほど大きな地震や火山の影響を受けにくいことが分かり、驚いたことがあります。田池先生がこれをご存知だったかどうかは分かりませんが、四つのプレートがひしめき合う日本と、プレートの真ん中<sup>あんたい</sup>でのほとんど安泰な NY、NJ、これから天変地異が増えてくるといいう 250 年間に大きな差が開くのは明白だと肉でも思いました。そういや地震とか火山とかの話<sup>から</sup>を全く聞かないから、全然仕事上で絡みがなかったんだと妙に納得しました。

かつて地球には一つの大陸しか存在しなかったと言われています。それが分裂して今のような状態になったのですが、その時に各大陸を移動させた船のような役割を果たしたものがプレートと言われています。ゆっくりと長い時間がかかった今もなおプレートは動いており、ある場所では衝突して火山を造ったり、2011 年の東北大地震のような大きな地震を引き起こしたりしています。

さて日本はプレートのどういう場所に存在するのでしょうか？ 近年の大地震のためにご存知の方も多いとは思われますが、日本とその周辺では四つのプレートがひしめき合っています。大まかに言って地球上には十数個しかないプレートのうち四つものプレートが日本とその近海でぶつかっているのですから、まあこれまでよく沈まないで存在してきたと思います。しかもユーラシア、北アメリカ、フィリピン海プレートの三つがぶつかっている場所が富士山近辺にあります（確か甲府辺りだったと思います）。こんな所は地球上でもかなり稀<sup>まれ</sup>としか言いようがありません。しかももう一箇所、三つのプレート（太平洋、北アメリカ、フィリピン海プレート）が重なっている場所が千



1

田池留吉に向けて、死後の自分に向けて、肉を離れた後の自分に向けて、瞑想した時に、あれこれごちゃごちゃと次の転生てんしょうでも肉の思いに、振り回されずに唯一筋に田池留吉に向けていかなければと思いました。“唯一筋に”これだけなんだと。嬉しかったです。

終わってからUTAブックさんがパソコンに載せてくれるのを聞きながら意識の流れって、本当に流れているんだなあと思いを感ぜさせていただいとても嬉しかったです。ありがとうございます。

2

「しっかりとバトンをつないで下さい」と、250年後の私が言います。

「はい！」と今の私が答えます。

約束しましたよ。

有難う。

3

はい、私は250年後、アメリカニュージャーシーに喜び喜び喜び、ただ喜びだけで存在する意識の集合体です。

4

いまだ見たことがない光景が浮かぶ

それは紅葉の季節

川沿いの落ち葉が敷き詰められた

落ち葉を踏みしめて歩くそんな一角に

何かに引き寄せられるようにたどり着いた。

まるでそれは夢の中なのか現<sup>うつ</sup>なのか

なにも確信はない

250年後と思うと必ず浮かぶこの風景

5

一人でいる私があります。さみしくてたまらない心。

一人ぼっちの私。なにかなにか探している思いがあります。

ずっとずっと探していたのです。私がさがしているのは、アルバート。

そんな思いが私を支えてくれています。

6

この日を待っていました。この日を待っていました。

今の肉の自分には全くわかりません。

でも250年後という言葉を聞くと心が震<sup>ふる</sup>えます。

そしてこの日だけを待っていた、待っている。

そういう思いが溢<sup>あふ</sup>れてきます。

肉の自分は頭で考えてしまいます。

だから全くわかりません。

でもこの心から震えてくるような思いを信じていきます。



7  
愛です。一つです。

NJ エッジウォーター、ハドソン川のウォーターフロント

一番覚えているのは、昨年から、その前の年だったか、アメリカ在住の方たちのスカイプの時でした。

最後のほうで、塩川さんが、アメリカの地名を数か所おっしゃった時でした。

「エッジウォーター」に反応して、喜びが噴出しました。覚えているといふか、知っているといふか、とにかく理屈抜きにうれしくて、自宅で一人瞑想していたんですが、飛び上がりました。

もう一つは、今年に入ってから何度目かのライブ配信が、ちょうど地域のお勉強会の日時と合って、大宝ホールで、学びの友とみんなでの瞑想の時でした。田池留吉に向ける瞑想から、死後の自分に向けての瞑想も終わり、その後「250

年後の自分に向けて」の時、とても言い知れない苦しみの中だったのに、「肉をくれー、肉を！」もう、必死の思いで訴えている感じでした。どんなに苦しい環境でも肉が必要なんだ、本当に肉の自分は、ぼけて、普段は普通に当たり前に生活しているけれど、中はこんなに懇願こんがんしているんだ、生まれてこれるかどうかが、自分の中の意識にとって、どれほどのことなのか、本当に千載一遇せんざいいちぐうのチャンスを手にできるかどうか、その必死さが、瞑想で感じられました。

また肉にすぐ戻って、時間を無駄に過ごしてしまうけれど、このことは忘れられない体験です。「生まれてこれること、このことだけが愛でした。」瞑想でそうなんだと、馬鹿な自分も一瞬ですが思いました。瞑想ができる環境があるがたいです。

こうしてまたそのことを思い出して改めて、自分に言い聞かせていきます。

ブックさん、色々な企画を本当にありがとうございます。  
ございます。

9

250年後に向けた時に出てきた思いです。

私は250年後に肉を持つあなたの意識です。

今あなたが無数のあなたを抱<sup>か</sup>えて肉を持つているように、私も無数のあなたを抱えて、アルバート、核のもととともに学<sup>てんしやう</sup>んでまいります。

今までの転生<sup>てんしやう</sup>は、250年後、地球上での最終地に肉を持ち、最終の学びをするための準備期間だったとも言えます。

地球上での最終地で最終の学びを喜び、喜びで行ってまいります。あなた方の到来を喜び、喜びで待つております。

感想

死後の自分に思いを向ければ、たくさんの自分と対話ができ、次の転生に向けても対話ができます。

こういうことができるのも、真実の意識、田池留吉の意識に出会い、ともに真実を学ばせていただいたからこそのことです。真実を知らないまま肉を終えることは、永遠に地獄の奥の奥のそのまた奥底で身動きもできない固まった状態だと知りました。

田池留吉の意識と出会った今世ほど、喜び幸せな人生はありません。出会いを心からありがとうございます。

今回の企画にも感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



10

今世、どれだけの思いで肉体を頂いたか。

肉を通し、底の底の奥底で狂い、真つ暗な中で、  
跪き苦しんでいる意識の自分を確認できました。

でも、今世田池留吉の波動に出会い、間違つて  
きたと私のすべての意識が叫びをあげています。

250年後に向けて瞑想できる喜びが底の底  
の奥底から吹き上がってきます。

11

ニューヨーク、セントラルパークで満身創痍

の私は叫ぶ。

「アルバート！」

「私は愛です。私は愛です。私は愛です」と。

12

瞑想で、250年後に向けたとき、「250年  
後に出会いたくて、おかあさんに産んでもらい  
ました」そのような思いができました。

13

250年後

アルバートの目との出会い。

瞬間、田池留吉を思い出します。

日本の国で田池留吉とともに学んでいたこと  
を思い出します。

アルバート、アルバート、アルバートと叫ん  
びながら、田池留吉を思い出します。

懐かしい、懐かしい故郷、日本を思い出します。  
友が沢山います、仲間の顔がたくさんあります。

出会えた喜びにわきかえります。

ともに、ともにアルバートと出会えた喜び。

田池留吉を思い出した喜びが心に広がってきます。

ありがとうございます。

14

「田池留吉を思う」……なんにもない、なんにもないと、思いました。

「死後の自分を思う」……うなだれて、小さくなつて行く自分を感じました。

「もう一度、田池留吉を思う」……

どんどんそちらのほうへ、吸収されて、近づいていく自分を感じました。

しばらく、その様な感覚が続きました。

そして、なにか、大きい所へ、到達しました。

具体的にそのような感覚でした。

これが、私の、「250年後の瞑想」です。

1764  
のメッセージを読み、目の奥と胸の奥が、暖かくなって、詰まっていたものが、スーッと溶けてなくなりました。

最近思っていることは、

ポカポカとして、中からじんわりと、暖かく、気持ちが良い。

そして、しっかりとしている。

気分が良い。

本当の友達。

支配もなんにも無い。

とても気持ちが良い。

そんな思いがします。



NY から NJ エッジウォーターへ船で……

15

250年後は、私の心にあ  
りました。私はいつでもこの  
自分と出会っていくことが出  
来る。私は250年後の私と  
ともにあります。

心に向けていくことが喜び  
です。自分を呼ぶことが喜び  
です。

お母さん、ありがとう、私  
に肉をくださってありがとう  
ございます。

喜びで喜びで自分に心を向  
けてまいります。

今、この瞬間を私はわたしに問います。

これから250年後のわたしに問います。

肉で生きてきた私でした。

私がわたしに問うのです。

そのための肉、今世でした。

私が田池留吉、アルバートに問います。

肉で生きてきた私は間違ってきたと。

肉を本物する思いが間違ってきたと。

肉の思いを供養するための今世でしたと。

今世の肉がある限り、死んでもからも、250

年後につなぐため……、私はわたしに問います。

昨日初めて「死ぬまで瞑想会」に参加させて  
いただきました。とても良かったです。

セミナー会場や地域の勉強会で感じた喜びと  
ちよつと違った、ふわつと優しい安心感と喜び  
に包まれました。長い間学ばれてきて、肉的「死」  
も近い方々の優しい波動なのでしょうか。

「ともに帰りましょう」に素直に「はい」と言  
えました。初めて「死後の世界」もふわつと温  
かいものを感じました。田池留吉を感じました。  
まだまだほんのはしりかもしれませんが、この  
思いを信じていきます。そして250年後を思  
う瞑想の時も同じような温かいものを感じまし  
た。

うれしい、うれしい瞑想の時間を設定して下  
さったUTAブックの皆さま、本当にありがと  
うございました。いつもご苦勞様です。

ありがとうございます。私を産んでくださってありがとうございます。私は帰ります、あなたとともに帰ります。

長い長い間待ち続けてきました。ようやくその思いが叶え<sup>かな</sup>られること、とつてもしあわせです。

ようやくですねお母さん。

ああ、アルバートが待つてくれています。会いたかったアルバート、帰つておいでと待つてくれています。

嬉しい、ありがとうございます。必ず必ず帰つてまいります。

私の250年後に向けて出る思いは絶対、絶対喜びのエネルギーに目覚める、うれしくて、うれしくて心の中に喜びが溢<sup>あふ</sup>れる自分がいる。という思いです。でももう一人の自分が本当かな？「もつとしつかり心を見てね」と言っているのも感じます。私の中に250年に向かつている私と、それを後押しする私がいるようです。絶対、絶対の思いを実現するために今ある肉の人生すべてを使つて心を見ていこうの思いが上がつてきます。

言葉にするとありきたりですが、ただただ嬉しいです。みんな一つでした。250年後を思うとまさにふるさとの歌そのものでした。肉



ある限りふるさとの歌を口ずさみ、この思いを  
250年後に繋<sup>つな</sup>げていきたいです。このような  
機会をありがとうございました。

21

250年後、アルバート、次元移行。

アマテラス、アマテラス……250年後、今  
世ともに学んだことを思いだすでしょう。

心が叫ぶアルバート、アルバート。アマテラ  
スとともに次元を超えてまいります。

うれしいです。ありがとうございます。

22

250年後に向けて出てくる思いです。

帰りたい、帰ろう、帰るんだ！切望して田池  
留吉、アルバートと泣き叫ぶ思いとともに、く  
そつー、くそつー、苦しい苦しい、何が愛だ。ど  
こが愛なんだ、怖い怖い、何もかも苦しい、こ  
の天変地異が怖くないやつがいるなら出てこい！  
この閉塞<sup>へいそく</sup>されたこの心をどこに向けたらいいん  
だ、苦しいー苦しいー、でも帰りたい……同じ思い  
が上がってくる、お母さんーお母さんー……ひた  
すらに呼ぶ思いか、助けてくれの思いか……。

私の心はまだまだ250年後を喜びで迎える  
思いになってません。

転生<sup>てんしょう</sup>のたびに出会うであろう天変地異……肉  
はボロボロ心は疲弊<sup>ひへい</sup>しているその中で、母の温

もりだけがすべての鍵、それまだしつかりとが確立できていないからです。

23

あー、お母さん、私たちは再びタイケトメキチと共に学ぶ時間をいただきました。ありがとうございます。うれしいです。お母さんありがとうございます。

24

田池先生との出会いは、真なるものを求める人生そのものと、日々の瞑想を、U T A ブックの再読を通して実感する。

“ともに瞑想を”のライブ配信を聞かせてもら

う都度、肉を離す不安感が薄くなり、250年後の再会を確実なものにする方向に意識が向かう。

25

単純に250年後と思えば、アルバートを呼んでいるたくさん私の私に出会います。

今世以上の強い思いで、お母さんに肉を、私を産んでくださいと願います。

帰っていききたいのです。私は、あの宇宙へ、忘れてしまった宇宙へ、母なる宇宙へ帰ります。

伝わってくる思いはアルバートです。

心をただただその思いに向け合わせていくことが、今肉を持つてしていくことです。

自分の思いの世界を知れば知るほど死後固まっっていくしかない現実を知り始めています。

肉が自分だとする世界は戦いのみでした。

固まっっていく中で、「今度こそ。今度こそ」と空<sup>むな</sup>しさ苦しさ冷たさの中で自分を奮<sup>ふる</sup>い立たせます。

「温もりの中へ帰りたい」チャンス을ください。

お母さんが、あの今世のお母さんが願<sup>かな</sup>を叶えてくれます。

田池留吉が肉を持つ今世に肉をくれたあの母です。

お母さんありがとう！ アルバートと叫べる  
250年後……。

うれしいです。

目を閉じて250年後を思うと、胸の辺りに大きなエネルギーを感じます。

マグマが吹き出るのを今か今かと待っているような、そんな感じ。それが喜びなのか苦しみのかは、まだ分かりません。

私はニューヨークでこの学びに出会いました。

順風満帆だった日本での生活を捨てて、ニューヨークに渡りました。今思えば田池留吉に会いに、単身乗り込んでいったのです。

それと同じように私はアルバートに会いにきます。

そんな自分を感じるとき、ただただその自分が愛<sup>いと</sup>しくてたまりません。肉では何も分からなくても、中はみんな知っていることを感じます。



NY トランプタワー (上) / 9・11のモニュメント・消防夫の像 (下)



28

250年後と想った途端<sup>とたん</sup>、苦しい思いと恐怖心が出てきました。

これから真剣に、ホントに真剣にやっていかないと、とても250年後にはつないでいけな  
いと思いました。

これから、ホントに真剣にやっていきます。

29

250年後、それは喜びです。

懐<sup>なつ</sup>かしくて、懐<sup>なつ</sup>かしくてただただ会いたかつ  
たと叫びます。

嬉しくて嬉しくて、涙が溢<sup>あふ</sup>れて、幸せです。  
アルバートに会いたかつた、その一言です。

30

パアーーつと広がる感じがして、手を上に  
あげて異語を語っています。

お母さーーん、お母さーーんと呼ん  
でいます。うれしいです。

31

250年後の出会いまで、落ちて落ちてトコ  
ン落ちて、もがき苦しみ、人生を呪<sup>のろ</sup>い恨<sup>うら</sup>み、ど  
ん底に落ちた状態で、アルバートと出会います。

その瞬間、喜びが爆発します。それはもう言  
葉になりません。

出てくるこの思ひは、まだ断片的です。まだ  
まだ自己供養を進めていかなければならないと



感じます。

32

250年後は今。今に全てが集約されている。本当にそうでした。

今世を逃して、250年後はないと思うが上がつてきます。

今世のこれからのお勉強にかかっています。余りにも今までの自分の学びがほんくら過ぎました。今のままでは250年後はないと自分が自分に伝えます。

微かにですが、宇宙が待っている。約束を思い出し、次元移行を果たしてくださいと宇宙の友が切実に伝えてきているのを感じ始めます。

どれだけ肉に埋没し、自分を裏切ってきたか。それでもこうして待っていてくれる。今世がど

れだけのチャンスであるのか。まさに千載一遇せんざいいちぐうのチャンスでした。

ほんくらなどうしようもない肉の自分に、肉体細胞を始め、様々な現象を頂き、漸く目が覚めてきました。これでもかこれでもかと、沢山の愛を頂いてきました。遅すぎました。肉体細胞は愛でした。これだけ沢山の現象を頂かなかったら未だに目が覚めない、どうしようもない自分でした。

これから真剣に、本気になって、この道、真実の道、意識の流れ、田池留吉、アルバート、母なる宇宙に帰る道を歩いていきます。250年後へと真つ直ぐにのびる、この道一本道を歩いていきます。そして必ず、250年後に繋いでいきます。

田池留吉、アルバート、母なる宇宙、お母さん、待っていてください。

今世を、今世の肉を本当に、ありがとうございます。



NJ プリンストン・公共図書館



33

うれしいです。うれしいです。うれしいです。  
お母さんありがとう。お母さんありがとう。お  
母さんありがとう。うれしいです。お母さんあ  
りがとう。うれしいです。

34

今までは、250年後を思うことさえ嫌って  
いました。

嫌だ、もう生まれたくない。

今世が何事もなく終わればそれだけでいい、  
みたいに思っていました。

本日（10月5日）、250年後を思う瞑想をし  
たら、250年後は遠くにあるものではなく今  
の一点、と違って嬉しかったです。

35

アルバート、アルバート、アルバート

私たちの故郷を目指し

思いはみんなアルバート

みんなみんなひとつ

あの宇宙へ帰る!!

間違い続けてきた真つ黒な私たち宇宙が

あの宇宙を目がけて

喜びで爆発!!!

ああ、お母さん、ありがとう……

ありがとう……

タイケトメキチ、アルバート……

ひとつ

アルバートと叫んでいました。

アマテラスとともに、ともにお母さんと呼び続けていました。

嬉しい中にこそ次元移行があることを知りました。

250年度に思いを向ける、「ずっとずっと待ち続けてきました。そして、これからも待ち続けます。」私の心はそう語ってきます。

まだまだ真実の私には今の私は届かないけれど、それでも待つて待つて待ち続けてくれる私があることを嬉しく思います。

「肉を持たなくてもよかった田池留吉の意識が、今世肉を持ちました。」

この一文を思い出す時、私は母に「なんでこんな時期に産むんだ、お母さん、今世私はどんなに苦しい思いをしてここに生きているのか分かるか。」って、反発の思いが出てきます。

田池留吉と時を同じくしたから、洗いざらいの思いが噴き上がってくる、悔しいけど願い出たからこそ私というものの本質が見えてくる。

喜びで捉えるならば喜びの私を感じてくる、苦しみで捨て置けば苦しみが蓄積されるだけ。長い年月セミナーに参加して耳には沢山の言葉が詰まっています。

250年度の自分を思う時素直に、「肉体をください、お願いします。」母に願う私があります。そして、「肉体をいただいたからこそ、今こうしてアルバートと出会うことが出来ている、なんとなんと幸せな事か、本当の喜びとはこのこと

ですよ。」と伝えてもらっている。

幸せが喜びが爆発する、その瞬間を思えばどんなにどんなに幸せかを思える。今世のそれよりももっともとの喜びがあることが響いてくる。この喜びの中でこそ次元移行が迎えられるんだと知ります。嬉しい嬉しい瞬間です。

38

250年後、待っています。心待ちにしています。

アルバート。アルバートです。

アルバートと呼んでください。アルバート、アルバート。私達は喜びです。

お母さん、ありがとう。お母さん、ありがとうございます。私を産んでくれてありがとうございます。私は母なる宇宙のもとへ帰ってまいります。

出会いをありがとう。たくさんのお会いをありがとう。本当に肉体を置いていくときがやってまいります。私達は、喜びのエネルギーだからです。地球よありがとう。長い長い時間、私達を受け入れてくれてありがとう。

私達とともに次元を超えていく意識です。喜びの再会を果たしてまいります。

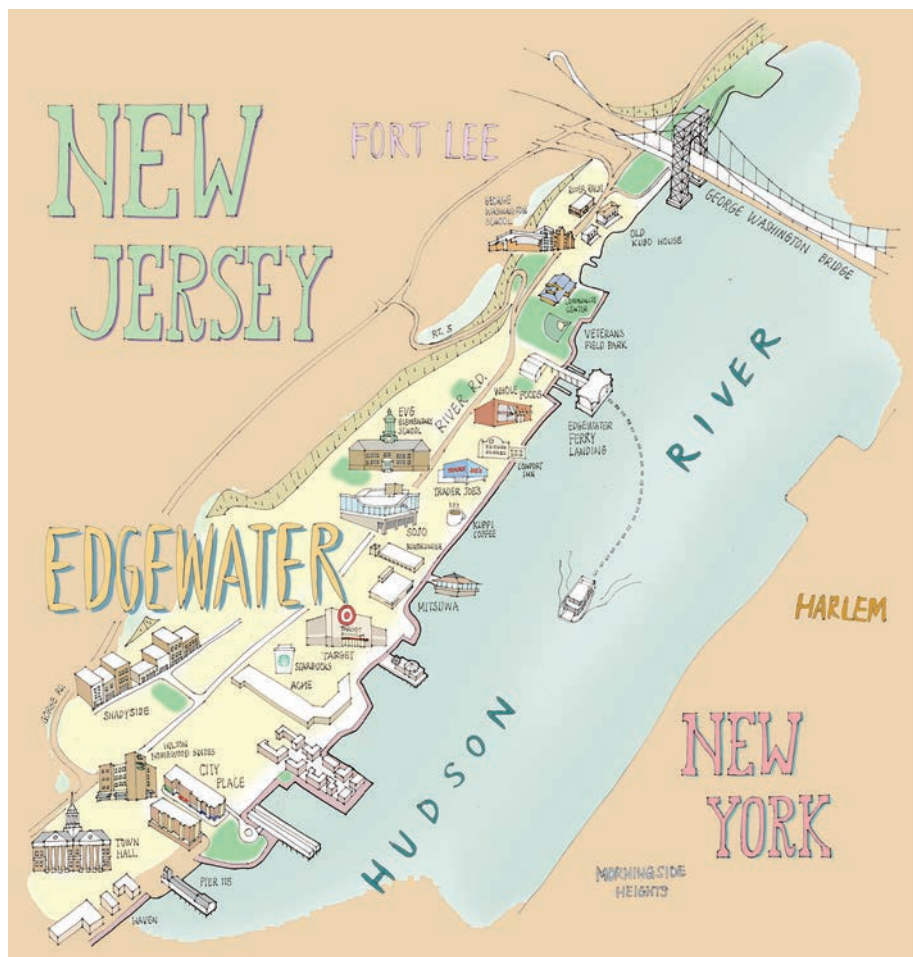


ジョージ・ワシントンブリッジ (NJ 側から)



その隣にはブルックリン風のピザ屋さんが昔からあり、東海岸ならではの、美味しいピザを気軽に食べることができます。

その並びには韓国チゲ鍋、中華料理、ベトナム料理やお寿司屋さん、そしてその先にはベーグル屋さん、少し歩くとトルコ料理、ギリシャ料理、キューバ料理もあります。沢山の人がこの小さな街にギュッと集まり、それぞれのカルチャー（文化）を学び合いながら暮らしています。







ハドソン川に沿って南北に長い、ニュージャージー州郊外の小さな街エッジウォーター。

約 30 年前に夫が住み始めた当時は、日系スーパーのヤオハン（現在のミツワ）以外に特に目立った商業施設もなく、古い住宅と壊れかけた工場しかありませんでしたが、今ではオシャレなレストランやカフェ、人気ショッピング街、

メジャーなスーパーマーケットなどが沢山出来ました。

次から次へと立っていく高級マンションには、ファミリー層やビジネスマン、芸能人などがマンハッタンから多く移り住んできています。

目の前でどんどん変化していくこの街の中で、私たち家族の長年のお気に入りの場所といえば、ハドソン川沿いにずっと続く遊歩道。

暖かい季節には、犬の散歩や自転車を走らせる子供達、カップルや忙しい街並みから息抜きをしにやってくる人たちがあふれます。

私たちも、愛犬を連れてのんびりとニューヨークの景色を眺めながら歩き、つかれてきた頃に散歩コースに並ぶお店で休憩をします。

昔はよくアイスクリーム屋さんに行ったり、ミツワのフードコートでランチを食べたりしましたが、私の最近のお気に入り、数年前にできたカフェ『kuppi』です。広くてモダンなインテリアの店内で、美味しいコーヒーと、ニューヨークで有名なベーカリー『Barthazar』のパンやお菓子をニュージャージーでいただくことができます。ガラス張りの壁からは、ハドソン川の向こうのハーレムが目の前に見え、いつまでも座っていたくなるようなこの空間がとても好きです。

タイケトメキチを思えばアルバートと呼んでいます。

以前から、今世、タイケトメキチに必ず出会うために生まれてきたという思いが上がってくるのですが、肉の思いの強い私はなかなかピンとこず、最近、ようやく少しずつ思えるようになりました。苦しい過去世の実感が強く、生まれてくることへの恐怖が強く、250年後に思いを向けることが恐怖なので、敏感な方だと思うし、素直に、素直にと思うのですが、250年後と思うと閉じてしまう感じでした。

今回、向けてみて、「お母さん、肉を持たせてくれてありがとう。」という思いが上がってきて本当の私は喜んでいて、それを信じてくださいと伝わってきました。

たくさん苦しい自分は肉だという過去の自分を供養していかないと250年後に向き合えないのだと思いました。

学びに出会う前は勿論、もちろん出会ってから長い間、肉で頑張る、肉を整える、に力を注いできた愚かな私でした。

そんな私でも、「愛へ帰る道」に向かつて真ま直ぐに歩いていこう、そのために母に産んでもらったのだと、やっとやっとわかってきました。嬉しいです。

次の転生、てんしやうまた次の転生、そして250年後の転生には、必ず繋つなげていこう、そのためには今世の残された肉の時間を、正しい瞑想をして学んでいきます。

250年後に向ける。

ただ、ただ嬉しい。

お会いできます。

タイケトメキチ、アルバートに会えます。

肉の私は馬鹿なので、次元移行を頭で考えても分からない。

でも、共に次元移行する事実に向向けるとただ嬉しいです。

持ち物は愛だけです。

他には何も無いし要らない。

沢山の思いや荷物を抱え込んでいる自分に伝えたい。

ホントは何も要らないこと。

空を飛ぶ鳥がどんなに自由か！

軽く軽く、翼を羽ばたかせて空高く飛ぶ鳥達

から教えて貰っています。

タイケトメキチ、アルバートに出会う。

そこだけに焦点を合わせて生きたいです。

250年後は愛です。

その愛の中に、飛び込んでいける自分を信じています。

本当の自分と出会える幸せを心で感じて参ります。

.....

あなたは、愛です。

あなたは、愛です。

何度でもお伝えします。

あなたは愛です。

それだけを信じて下さい。

肉では無いあなた、それがどんなに大きな存在であるかを心で感じて下さい。

私は田池留吉です。

250年後に向けた時に出てくる思いについて、直近の死ぬまで瞑想会の音声聞いて2度、その後で少し長めに時間を取って瞑想しました。

最初に向けたときはふわっとした感じで瞑想を終えました。2回、3回と続けると、次第に250年後の自分がつきりと力強く感じられるようになりました。私の中に既に250年後の私が確かに存在していることが波動として伝わってきました。私はここにいます、と。

瞑想中、肉ですが、250年後、アルバートに出会えると良いな、今世、田池先生の元で皆と学んだことを思い出せると良いなと思いがら瞑想を続けました。ふと、アルバートが言葉ではなく異語で語りかけてくれているような感

じがしました。頭を介さない異語を通じてどんな波動がダイレクトに伝わってくるような。瞑想を通して、250年後の私がしっかり私の中にいる、実体はないけれど、エネルギーとして確実に存在していることが確認できました。

今まで積極的に250年後の自分に向けてみたことはありませんでしたが、今回確認できて良かったです。

今後は250年後の自分、250年後に至るまでの自分とともに学びを進めます。

このような機会をいただいてありがとうございます。

250年後、肉をもっているかどうかはわから

ない。ただ共に帰ろうの呼びかけに必ず何千億もの私達は呼応<sup>こおう</sup>していく。  
その喜びが伝わってきます。

44

始めは「嫌だ！向けたくない」と自分から蓋<sup>ふた</sup>を閉めていました。

怖い、怖い、怖い……。

そしてもう、全く取り繕<sup>つくろ</sup>っていけない私がい  
ました。

まさしく肉が本物、という私が歴然でした。

それが、何回も「死後に向けて」の瞑想<sup>めいそう</sup>の機会がある度に、怖い、から、苦しい、苦しくて  
たまらない、に変わり、私なりにいつの間にか  
250年後の私に繋<sup>つな</sup>がっていったと思います。

「腰が痛い。痛くてたまりません。人が信じら

れません。私は一人ぼっちです。どうしてこんな酷<sup>ひど</sup>い目に遭<sup>あ</sup>うの。……ああ、宇宙人？いや違う。優しくて温かくて、何だ。何だ。何だ。形が見えない。ああ、お母さん、アルバート、アルバート、アルバート……」（異語）嬉しいなあ。何だか訳もわからず、嬉しいなあ。

私はこの数年、よく転び、よく骨折し、ちよつとよくなったと思ったらまた転んでしまい、セミナー参加から離れてしまう日々を過ごしています。

セミナーに行きたい！は全くの欲だと思い知り、行けなくても日々の中で自分を見ていく環境の中が、如何<sup>いか</sup>に凄<sup>すじ</sup>いことなんだ、とようやくようやく、少しずつ分かってきました。

とにかく、築60年の部屋が汚<sup>きたな</sup>い、掃除好きの私にはこのようなすっきり動かない身体<sup>あきら</sup>にならないと諦<sup>あきら</sup>めきれませんでした。

2足のワラジ、から離れるのはこういう身体にならないとダメだということでした。

我が家の娘も愛犬も、汚きたないお家でも全く平気で受け入れています。

やがて、セミナー参加も、いつか行ける日が来るとお任せになろうと思えるようになりました。

ホームページに綴つづられていたように、最低限の肉の決まりが守れない現実の姿を先ず認め、自宅でもやれる環境に、心から「ありがとう」と自分の肉に伝えていく心がけにしよう、そう思います。

こういう機会を作って下さり、ありがとうございます。ございました。綴つづっていくこと、本当にUTAブツクさんのおっしゃる通りです。

私の目の中にアルバートがいます。

アルバートを感じます。

何もあります。

アルバートの波動が私の心にどんどんどんどん広がっていきます。

「待っていましたよ、待っていましたよ」と、私の心に響き渡ります。

辛つらかった、辛つらかった、本当に辛つらかった、苦しつらかった、本当に苦しつらかった。

でもでも、たどり着いた、やっとやっとたどり着いた、

嬉しい、嬉しい、本当に嬉しい。

号泣ごうきしている私があります。周りの友も皆涙と歓喜でぐちゃぐちゃです。

これからです。いつそう厳しい状況になってきます。心を引き締めて、250年後に繋つながるよう真摯しんしにやっつていこうとおもいます。



## フォートリー・ホリデイイン

母がセミナーに参加するため、小学5年生の時に初めてアメリカに行きました。FortLee（フォートリー）にあるホリデイインホテル（現ヒルトン・バイ・ダブルツリー）は階段を上がった2階にセミナー会場があって、母はずっとそこで勉強していましたので、私はホテルのプールで外国人の3兄弟と1日中遊んでいました。泳ぎすぎたのか、更衣室で着替えていたら意識がふうっとなくなり、服のままプールにドボンと落ちて目が覚めました（これが初めての貧血でした）。他にも、当時かなりのいたずらっ子だった板倉充弘さんがホテルの天井に風船を飛ばして警報機が鳴りセミナーが中断するというアクシデントもありました。その後、（アメリカ在住だった）梶谷佳秀さんが「気分転換に」と子供たちをドライブに連れ出してくれて、景色のいい場所でアイスクリームを食べたこともとても懐かしい思い出です。あれから30年が経ちますが、アメリカセミナーは、今となっては過去であり未来でもあると感じています。



厳しい、厳しい転生<sup>てんしやう</sup>でした。

お母さんの元に帰ります。

アルバートと、出会いたかった。

それだけです。

毎日、何回か以下の13項目に向けます。1、

タイケトメキチ 2、アルバート 3、お母さん

4、肉体細胞 5、母なる宇宙 6、万象

万物は愛 7、意識の流れ―次元移行 8、意

識の転回―自己確立 9、磁場反転―自己供養

10、意識―永遠無限波動エネルギー 11、アマ

テラス―心の友 12、U T A―愛<sup>みちしるべ</sup>への道標 13、

共に共に心のふるさと愛に帰ろう

先日頂いたメッセージが厳しく、心に響きます。あなたが幸せでなければ、人の幸せは、願えません。

タイケトメキチと言う温もりの世界に徹底抗戦している、自分の意識の世界をもっとしっかり捉えて下さい。タイケトメキチに刃向かっているエネルギー<sup>すじ</sup>凄いです。どうぞ自覚を深めて下さい。

ワン・ツー・スリー底の底の底の奥に本当の自分がある。それをお母さんの優しさで反転するまでに至らなかったと、反省させて頂きました。そのエネルギーが次元移行<sup>つな</sup>に繋がると思います。

私にとっては、今世死ぬ時、お母さん、タイケトメキチ、アルバートを思つて死にたいと思います。その為には、今が、1日が大事です。常に自分に忠実に生きます。ふるさとの歌詞が流れます。

250年後を思うと、ひとつの場面が浮かびます。

ハドソン川の畔ほとりを歩いてみると、公園でワイワイと喜び合っている人達を見掛けます。

その時に、その人達に吸い寄せられていく自分と、そのまま通り過ぎていく自分の、二通りの自分が思い浮かびます。

今世の自分は、その時にその人達に吸い寄せられていく自分でありたいと思いますが、250年後に何れの自分を選ぶかは、今世の自分の学びに託つたされているんだと思います。

250年後へ繋つなげる今世の自分でありたい、あらねばと思います。

250年後、アルバートとの出会いを、簡単に考えないでください。

非常に厳しいです。

心してください。

瞑想の中で250年後を思うと込み上げるものを感じる。

肉持てる喜び。お母さんに受け入れてもらえる喜び。250年後に確実に存在できる喜び。それは肉持つアルバートに出会えるという証あかしなのだから！もうもう嬉しいだけ。

あまりの苦しさてんしょうりんねに転生輪廻げだつからの解脱を悲願としてきたこれまでの転生に、生まれてくるこ

とは喜びだと伝えていける今に存在できる幸せを噛みしめる。

転生輪廻は喜びだった。心のふるさと、本当の自分に戻れる道筋を見つけて確かな一歩を刻んでいくための転生は喜びでしかない。

今世生まれてきてよかった。お母さんに産んでいただいたからこそ出会えた田池留吉氏との出会い。未だ道遠しの意識の転回だけでもそれしかないとい心で納得。

「思うは田池留吉、アルバート」。自分の中のたくさんの私とともに250年後の自分に繋いでいける実践ができる今が本当に幸せだ。

お母さん、ありがとう、ありがとう、ありがとう……。

51

今が250年後なんです。今、しっかりと田池留吉、アルバート、その意識、波動の世界を心に感じ、心に広げていってください。

心の世界です。待つて待つて待ち続けてきた世界です。250年後が待つています。あなたの心の中で待つています。ともにともに心を広げてくれるのを待つています。

必ず思い出します。苦しい転生、苦しい中、田池留吉、アルバート、心が知っている、心が覚えている。心が叫ぶ。あなたの心の中の叫びが響いてくる250年後です。

今、しっかりと学んでください。今が250年後、250年後が今なんです。250年後のあなたとともに学んでください。

52

肉をください。

お母さん、私に肉をください。

今世、願ったように、私に肉を与えてください。

53

250年後に向けたら、喜びと、嬉しい思いが返ってきます。

その後に、また肉を持てる喜びを切々と伝えてきます。

未来の私が、「ただ喜んで、喜んで今の時間を生きていくのですよ」と。

54

お母さんありがとう。再び肉を頂きます。

タイケトメキチの意識と出合います。アルバートと出合います。学びに集います。

今の家族とともに、沢山の友とともに学びます。お母さんありがとう。再び肉を頂いてともに学びます。

嬉しいです。ありがとう。お母さんありがとう。

55

出てくる思いは、ただアルバート。他は何もない。何もない空間に漂<sup>ただよ</sup>っている自分が今嬉しい。

昨日までは息が出来ない、語れない、動けない、固まって苦しさしかなかった。肉体細胞を責め、悲しむ自分しかなかった結果だったと思えた。

今回のセミナー現象で初めてお母さんを呼べ、それがどれだけ嬉しい事なのか肉体細胞を通して教えてもらった。否定的にならず肉に流される自分と向き合いながら<sup>きお</sup>気負わず、縛らず次のセミナー、また次のセミナーへと心を繋ぎ<sup>つな</sup>250年後に向かおう。

56

250年後を思うと、いつも出てくる思いは「田池留吉、アルバート、必ず必ず、私は出会ってまいります。今世伝えて頂きました、母の温もり、優しさ、愛。母の懷<sup>ふとこ</sup>に帰るため、母なる宇宙に帰るため、250年後の出会いを必ず果たしてまいります。」アルバートが大きく手を広げて待っていています。「出会いたい！ 帰りたいい！」の思いがどんな私でもいいからなんとし

ても産んでくださいと又お母さんをお願いをして肉を頂きます。

お母さん、アルバート、宇宙。愛の中で、苦しみを作り出してきました。<sup>きどう</sup>軌道を外<sup>はず</sup>してきました。私の宇宙を汚<sup>よじ</sup>してきました。

アマテラスとともに、ともに、出会いを果たします。やっとやっと出会えたこの真実への道。アメリカの地、ニュージャージー、アルバートの目と出会った瞬間、ひっくり返るほどの衝撃を受けてすべてを思い出します。

田池先生、ともに学んだ仲間達、宇宙の友、みんなみんな私の中でひとつの中に溶け合<sup>と</sup>って、凄<sup>すさ</sup>まじいエネルギー、喜びの雄叫<sup>おたけ</sup>びを上げながら、跳ね回る光景が、くつきりと浮かび上がります。愛だけでした。何も無い、何も持たない、何もいらない、ただ心ひとつで喜びだけを発している自分。

母なる宇宙に帰ろうの声がこだまする。「帰ろ



う帰ろう、ふるさと母なる宇宙へ、みんなひとつ、意識の世界。波動の世界、ただただ広がる広い世界に帰ります。」

57

250年後を思う時、今世を大切にただ自分の心の中の間違い狂い続けてきたエネルギーをしつかりと見つめ、そんな自分との出会いを喜んで喜んでいける。

自分が間違っていましたと心の底から認められることが喜びでした。そして、土台の修正、意識の転回に、全エネルギーを集中していく事がすべてなんだと心に響いてくる。

250年後、アルバートに出会い、心の底から、アルバートに反発反抗し、徹底抗戦してきたエネルギー、アルバート殺してやる、死ぬ、死ぬ、死

にさらせと、とめどもなく噴きあがってくる心の叫びを噴出して噴出していく、それが嬉しくて嬉しくて、アルバートありがとう、ごめんなさい、ありがとうに変わっていく喜びに再会する。

そして、お母さんありがとう。お母さん生んでくれてありがとう。必ず必ず母なる宇宙へ帰ります。

そして、ともに次元移行を果たします。

私は愛でした。私は喜びでした。ただただ喜び溢れる喜びの世界へ。

そんな思いが、今、心に響いてきます。嬉しいです。ありがとうございました。



NJ プリンストン大学 ゲート周辺と校内



「250年後」に思いを向けると言われても漠然<sup>ぼくぜん</sup>としていました。ただ、今世は250年後のための準備としてここにあるんだと思うと250年後は「本番」だからそれに向けてやっつけていこうという気持ちの高まりを感じました。

田池留吉、ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。私は何にも変わっていないかった。少し敏感になっただけ。それでもそれでも許されて愛されていた。田池留吉、ありがとうございます。250年後を思うと嬉しくてありがとうございます。ありがとうございます。

250年後に至る瞑想後、それを踏まえての波動の勉強で塩川さんが異語を発せられた時に、体全体から突き上げてくる歓喜のエネルギーを感じました。

どうしようもない愚かな肉だけれど、心の中は確実に250年後を知っている、今世とは比べ物にならないくらいに喜びのエネルギーを知っている。

自分は意識、エネルギー、そのことを今回も強く感じたセミナーでした。

肉では考えられないほどのことを心の中は感じて、頭を回すことは通用しないし傲慢<sup>ごうまん</sup>でした、それほどに僕の心は確実に250年後を捉<sup>とら</sup>えていました。

「人生は喜びです」と伝えていただきました。

「死もまた喜びです」と伝えていただきました。

この言葉を聞いたときは、まだよく理解できませんでした。

私はずっと汚いものきたなに蓋ふたをして生きようとしてきました。自分にとって汚いもの、それは自分の心の苦しみでした。私はずっと自分の心から目を背けたそむかった。

だから、私には、私の心そのものを封印して、なかったものとして、綺麗な形で死んでいきたいという理想が根底にありました。

心を見る学びを教えてもらって、自分なりに心を見るつもりでしたが、私はずっと自分の

苦しみを消し去ろうという思いでいたことに最近気づきました。

自分の冷たさを知ったときに、自分に悪かったなと思いました。

こんなにも私は自分を平気で切り捨ててきたんだと、そのことにすら気付けなかった自分に驚きました。そしてその冷たい自分を認められたときに、苦しい心を感じられることが喜びだと、これからの時間、この苦しんできた自分に出会って、ごめん、ありがとうと、これから一緒にねと伝えられる時間が喜びだと感じました。

死とともに自分の心、苦しみが消滅するとは思っていなかったけれど、どこかでそれを望んでいた自分がいました。だから今の肉をそれなりに生きて、後はこの肉体が消えるのと同時になかったものにしたいという思いでした。

だけど、私は意識、この肉体が死んでもずっと



ハドソン川を行くハーフムーン号（ニューヨーク発見 400 年記念行事）

と存在する意識、そう思った時に、今まで苦しみだと感じて嫌ってきた自分は、ずっと待っていてくれていたんだと感じました。私はここにいるよ、そう私に向かって叫び続けてくれていたんだと思いました。そしてその声を聞けることが自分に対しての優しさで、そうする時間をもつためにこの肉体があるんだと思えました。

そんな時間をもてる人生は幸せだと思います。そしてその思いでありがとうと死を迎えられたら、本当に幸せだと思います。

まだまだ本当に心から受け入れるということは難しいと思うけれど、伝えてもらったことを自分の中で大きくできたらいいなと思っています。



ンリー・ハドソンの思いを、ほんのちょっぴりでも感じてみようというわけです。このヘンリー・ハドソンこそ、ハドソン川の名前のいわれとなった人物なのです。

彼は、16世紀から17世紀初頭を生き、イギリス人探検家で、その後半生を北西航路の発見に費やしました。北西航路というのは、ヨーロッパからアジアへ向かう際、アフリカを回ってインド洋に出、そこから日本・中国へ出るのではなく、アメリカ大陸の北端を回り太平洋に抜ける道を探し、そこから日本・中国へ出ようというコース

のことを言います。1609年、オランダ東インド会社<sup>やと</sup>に雇われ、北米中央部から太平洋へ出る航路を探すことになったハドソンは、ハーフ・ムーン号の船長としてハドソン川をさかのぼり、ニューヨークを発見するに至ったわけです。しかし、ハドソン川の遡行はオルバニーで終点となり、太平洋への航路は、当然ながら発見されることはありませんでした。(写真は、トレーダージョーというスーパーのショッピング・バックですが、ニューヨークを発見したハーフムーン号がデザインされており、そればかりか、エッジウォーター市の公式シールとさえなっております。)

そのハーフムーン号が復元され、2009年9月14日、ニューヨーク発見の400年記念行事の一つとしてハドソン川を遡行したことがあります。

小生、惜しくも見ることはできませんでしたが、しかし、次にハーフムーン号がハドソン川を遡行するのは、いったい、いつのことでしょうか？



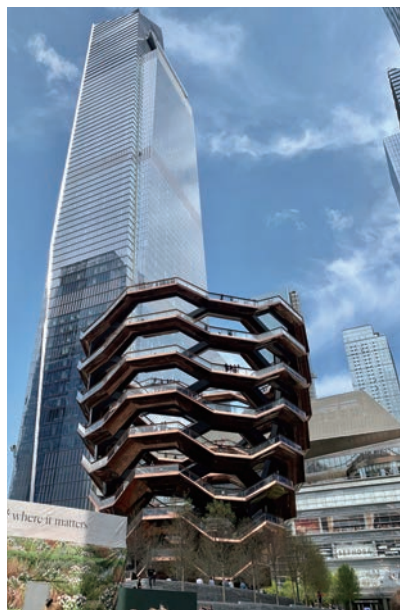




ここでは大好きなハドソン川の名前のいわれについてご紹介させていただきます。まずは、ニューヨークからニュージャージーまで、ハドソン川を遡行するフェリーに乗船することにしましょう。ニューヨーク側の乗船場は、ミッドタウンの「西 39 番ストリート・フェリーターミナル」。近くには 2012 年 12 月に起工した「ハドソン・ヤード」という都市開発区域があります。完全な形で完成するのは 2024 年の予定となっていますが、ベッセル（下の写真）と呼ばれる展望スポットも完成し、ニューヨークっ子に「目を見張る変貌ぶり」と言わせるほどの賑わいぶりです。

このハドソンヤードを抜け、川沿いにしばらく歩くとフェリーターミナルに行き着くという寸法です。

ところでフェリーは、ハドソン川を対岸にまっすぐ渡るのではなく、ハドソン川を上流へ約 3 キロほど遡行する形でニュージャージーの「エッジウォーター」へ向かいます。約 15 分の船旅ですが、今からほぼ 400 年の昔、ハドソン川を遡行しオルバニーに行き着いたへ



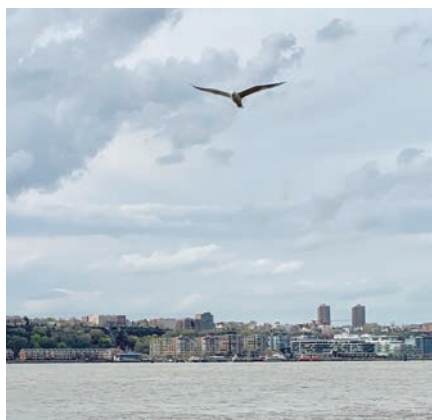
ますと、1613 年、平戸にイギリス商館開設時の商館員のことが目にとまりました。そこには商館長コックスが、ボーイとして雇った少年のことが書かれています。その少年の名がリチャード・ハドソン。ここでハドソンという名にひっかかりました。まさか……と思いつつ、コックスが彼を雇った経緯を読んでいて唖然としました。少年の父はある探検航海に従事しているさなか、彼の兄と共に行方不明になったというのです。この頃、そうさらに探検航海で父親が行方不明になるなどということはないでしょう。それも事件が発生した 2 年後、アメリカから日本に渡ってきたスペイン船の中から少年は発見され、ハドソンという名前までが同一だとなると……。

しかし、ディスカバリー号の反乱事件で、ハドソンとその息子ジョン(19 歳)については知られていますが、その下に弟がいたという記録はありません。

ヘンリー・ハドソンは、ディスカバリー号に息子ジョンばかりか幼い弟のリチャードまで乗せていたのでしょうか？ 今となっては、それを確かめる術はありませんが、事実だけを記載すると、リチャード・ハドソンという少年は、1613 年、アメリカ(ヌエバ・エスパーニャ)を出港し、日本の浦賀に入港したスペイン船から、ウィリアム・アダムスこと三浦按針が発見し、平戸イギリス商館にボーイとして雇われているのです。母船から追放されたハドソンら一行が、小舟でアメリカ東海岸を南下しバージニア植民地を目指したとして、そこからどのようにすれば日本へ渡ってこれるのでしょうか？ しかしこの謎解きまでしていると長くなりますので、事実は霧の中ということで、イギリス、スペイン、アメリカ、日本をつないでのハドソン談義、この辺でお開きといたします。



ジョン・コリア描くところの『ヘンリー・ハドソンの最後の航海(1881 年)』描かれた子供は 19 歳の青年とは思えない。



ここでは、ヘンリー・ハドソンと日本との不思議なつながりを紹介いたします。これはどんな歴史の教科書、解説書にも紹介されておらず、小生がたまたま発見したことであり、自慢たらしくも、ここに一部を紹介させていただく次第であります。

1610年、ヘンリー・ハドソンは、今回は息子<sup>ともな</sup>を伴っての探検行。イギリス東インド会社とバージニア会社の共同出資により、ディスカバリー号の船長として、アイスランドからグリーンランド、そしてハドソン海峡、ハドソン湾の発見と北への航海を続けます。しかし氷に閉ざされ越冬<sup>よぎ</sup>を余儀なくされます。そして、翌1611年春、ようやく氷の海から解放されますが、航海を続けようとしたハドソンに対し乗組員が反乱を起し、ハドソンはディスカバリー号から、その子・ジョンや一部の船員と共に小舟で追放されることになってしまうのです。この後、ディスカバリー号はイギリスへ帰港し、乗組員たちは海事裁判を受けることになります。しかしアメリカ大陸の情報、さらには北西航路の情報を欲するイギリス政府は、彼らを情報提供を条件に無罪としてしまいます。ハドソンの妻はアメリカへ搜索の船を向けますが、ついにハドソンらの消息を知ることはありませんでした。

以上が、これまでディスカバリー号の反乱事件と、ヘンリー・ハドソン<sup>そうなん</sup>の遭難<sup>そうなん</sup>について言われてきたことのあらましであります。

ところで何を隠そう、私めは、かつて平戸イギリス商館の歴史に大いに興味をもったことがあり、ニュージャージーでハドソン船長のことを知るなり、なぜか平戸イギリス商館への思いがぶり返し、帰国するなり、「英国商館長日記」を引きずり出しました。日記を読むでもなく、パラパラとめくって

素直に「ありがとう」って言える自分とともに  
「250年後」に向ければ、「嬉しい」って思います。

250年後なんか、分かるものか、今がこんなにも苦しいのに何が来世なんだ、くそたれがガタガタ言うな、ガタガタぬかすな、おとなしくしてりや、次から次へとうるさいんじゃない！ いいかげんにしろ！ くそ田池！ 250年後に出会ったら、お前のど頭をぶん殴ってやる、おぼえておけ、くそたれが、お前の首をしめて殺してやる、今世の怨み<sup>うら</sup>きつと晴らしてやる。待っている！ 今から今から楽しみにしている！ 必ず出合えよ、

逃げてみる、どこまでもどこまでも、ついてゆく、地獄の底から生まれてきたんだ、待っている。

苦しい自分、悲しい自分、寂しい自分。恨み<sup>うら</sup>呪<sup>のろ</sup>いすべてを殺してきた苦しい自分の心のまま、今世の人生を過ごしてきました。この学びを始めて34年……この苦しい心を救うために生まれてきたのに……苦しい心の上乗せばかり。

学びに集つても何も学んでいなかった。残された時間すっかり心見て……来世250年後に必ず繋<sup>つな</sup>ぎたい。繋いでいく。

250年後を思うとありがとうありがとうありがとう……田池留吉ありがとう。もつともつと心すっかり見てありがとう、うれしい心を広げていきたい。必ず繋げていきます。うれしい思いが広

がります。共に帰ります。嬉しいです。

65

意識は250年後に飛んでいます。250年後の私に強く引導される。今世は終わったような、おまけの時間を頂いてるような感じですか。ありがとうございます。私は肉を持って、意識、波動が真実である事を学ばせて頂きました。今世を境に真実の世界へ、ひとつの世界へ、心を馳<sup>は</sup>せ本当の自分に帰っていきます。

66

今日10月9日のズームの視聴での瞑想で出てきたと思います。

「お母さん、アルバートとの出会いをありがとう!!!」

言葉として出てきたのはこれだけですが、うれしくてうれしくて、喜びが噴出してきて、しばらく止まりませんでした。

ありがとうございました。

67

何回かやっているうちに苦しい思いを感じました。

それからまた数日して、苦しい思いと少し温かさも感じられました。



インディアンにとっての最大の不利は、各部族が、それぞれに誇らしく自由で、決して一つにまとめることがなかったことです。

複雑な戦いの展開に触れる余裕はありませんが、インディアン戦争は、ほぼ1世紀にわたって繰り広げられ、1890年の第7騎兵隊によるウンデットニーのスー族虐殺事件で収束するに至りました。

この<sup>ぎやくさつ</sup>虐殺事件は、インディアン戦争の象徴として語り継がれ、その80年後の1973年、白人のリンチや暴行に耐えかねたインディアンたちが<sup>ほうき</sup>蜂起し、かつての虐殺現場のウンデッドニーに結集し、71日間に及ぶ「ウンデッドニー占拠事件」へとつながっていきます。これを機にインディアン戦争は、「苦しんで行儀のよい白人となるより、誇り高いインディアンに」という「レッドパワー運動」として新たな戦いの側面を迎えることになるのです。

ニューヨークを訪問した際、念願の「インディアン博物館」の見学に行きましたが、ヨーロッパ文化の粋を集めたような税関ビルの中に、アメリカインディアンの様々な文化遺物が行儀よく陳列されておりました。



アレクサンダー・ハミルトン税関ビル内に  
つくられた国立インディアン博物館



アレウト、アパッチ、アラパホ、カウイラ、カタウバ、チェロキー、コマンチ、ダコタ、ホーチャंक、イヌイット、イロコイ、オタワ、ヤキ、レナペ……これはほんの一部で、まだまだ続きますが、いったい何だと思います？

これは、すべてインディアン種族の名称なんです。カリフォルニア・インディアンと言われる分類だけでも 100 近い部族が数えられ、アメリカ合衆国全体では、いったい何百部族あるものやら見当もつきません。

ちなみにニューヨークには、レナペ族というインディアンが住んでおり、先に紹介したハドソンの探検航海以降、オランダ人毛皮商が、当時ヨーロッパで大流行したビーバーの毛皮交易のため、大挙してこの地に住み着くようになりました。このため 1627 年、オランダはインディアンたちに物々交換を持ちかけ、マンハッタン島を譲<sup>ゆず</sup>り受けることとなりますが、その時の代償がなんと「布と短剣とビー玉」という、わずか 24 ドル相当の品だったとい

うことです。マンハッタンのも、このレナペ族の言葉で「丘の多い島」という意味だそう……。

さて、このヨーロッパ人の入植からインディアンとの関係が始まりますが、それは「インディアン戦争」という言葉に代表されるように争いの歴史でした。

当初は、インディアン部族間の抗争を列強が利用した、代理戦争的な面もありましたが、アメリカが独立するにおよんで、戦いの様相は、白人対インディアンの抗争に一本化されていきます。ここで



アレクサンダー・ハミルトン税関ビルの大ホール

250年後に向けてと、思ったら私は肉体を持っているのかな？

この今の肉を手放し次の肉をもらう事も、狭心症であつけなかった母親も壮絶な姿で逝った主人も去年死んだ愛犬翔に続いて10日前に死んだ犬のラストを思っても、肉体を持つことの重さが心にしみます。

今も、息をしてるかな？と寝てる父親をのぞき込む生活の中で、ああ、私にはもう無理かもと、根を上げかねない時でも、私は愛ですと心を向けられる今を250年後に、つなぎます。

250年後

思いを向けるだけで嬉しい。こんな私でも思いを向けるとただ、ただ嬉しい。

いつも、「こんな私でも……」が出てくるが、裏を返せば私はえらい、私は一番、私はすごい……を心に秘めているようだ。

表面だけは学びは何もわからない、敏感でもない、何でもない、いつまでたっても何もできていないと肉で思おうとしているようだ。

小さいころ（生みの母と離されて）寂しくても、決して寂しいを口にしなかった、できなかった時、表面を取り繕う事でどうにか肉を維持していたんだろう。もう、正直に心に正直になろう。どれだけ学んできたんだ、250年後と聞いて「嬉しい！嬉しい！」だけでいいではないか。何

もわからなくても嬉しいと思える。

それが嬉しい。思えば意識、ゼロ歳も今も250年後も意識は同じだった。転生<sup>てんしょう</sup>が嫌だったが嬉しいものなんだと思えるようになった。

70

250年後に向けて瞑想をしました。

いつも何も感じませんが、今日は途中で「必ず出会いを果たします」という思いが出てきました。

自分でもびつくりしました。

71

肉の思いに振り回されながらも、思いを向け

ると嬉しいのです。（主に音声聞きながらの場合、反応するようでした。）意識の世界、今が250年後、喜べる自分を忘れないようにします。

追伸

先日は首が痛くて肉体細胞、一気に死滅している感覚でした。けいこさんのお店の生体水を注文して、母親とオーリング実験してみましたところ、かたく、お水もおいしかったです。

72

昨日、ズームで、みなさんと一緒に瞑想させていただいた時、最初の瞑想で、肉では別々の人間、みんなの顔を見て、肉で、うれしいと感じても、自分は寂しい心でいっぱい。

肉からの脱却は難しく、今のままでは、250

年後につながることは大変厳しい。

今のままでは、250年後は、真っ暗だと感じました。

しかし、その後、みなさんと一緒に250年後に思いを向けるとただただ喜びでした。

ひとつでした。

お母さん、ありがとうの思いがあがってきました。

250年後の自分を真っ黒で、真っ黒で、真っ黒で、どうしようもないほど真っ黒でどうしようもない愚かな自分をこんな自分でも、田池留吉、アルバートは、両手を広げて待っていてくれていると感じました。

本当に、肉、頭では、わからない世界だとびっくりしました。

学びの機会をいつもありがとうございます。

反省と瞑想を続けます。

ありがとうございます。

73

250年後までには2回ほど転生てんしょうがあるようです。

つまり3人のお母さんに産んでいただけるということです。

ありがとうございます。

今世の母に使った思いをまたこの母たちにも向ける、愚かな自分が出てきます。

出来ることなら、感謝の思いを伝えたいのに、来世の私は愚かです。

それでも生まれてきます。

250年後、ハドソン川、という言葉に反応します。

私も貧しい黒人です。

喜びを爆発させるために、苦しい転生をつないできます。

ありがとうございました。

74

苦しい、苦しい、苦しい、苦しい……  
生半可な転生ではないと感じる。とても苦しい。  
なまはんか

今世と同様、それ以上の苦しさを感じる。

しばらくは、苦しみに埋め尽くされた自分の世界しかない。

ふっと、アルバートという言葉が頭をよぎったら、ああ、アルバートか、どこかで聞いたような気がする。

なんだ心がふっと軽くなった。遠い記憶。そして、私は過去にアルバートと呼んだことがある。

友と一緒にアルバートと呼んだことがある。

その記憶がうつすら蘇よみがえって、ほんの一瞬だったけど嬉しい思いが出てきた。

75

母を見下げ続けた。

おまえさえ、こんな環境に産みさえしなければ、おまえさえ、おまえさえ。

母を恨み、母をさげすむことでしか自分を保てなかった。

母は黙ってすべてを受け続けてくれた。

おまえさえ、おまえさえ、ぶつけてもぶつけても、母は受け続けてくれた。

母を呪い、世を儚<sup>はかな</sup>み、絶望に絶望を重ねた真<sup>ま</sup>っ  
暗な意識が爆発していく。

アルバートとの衝撃の出会い、すべてを知っ  
ているあの目。

なんということか、心の中が爆発し、崩壊し  
ていく。

すべての苦しみが喜びで爆発していく。

ありがとう、ありがとう、苦しみ続けた3次

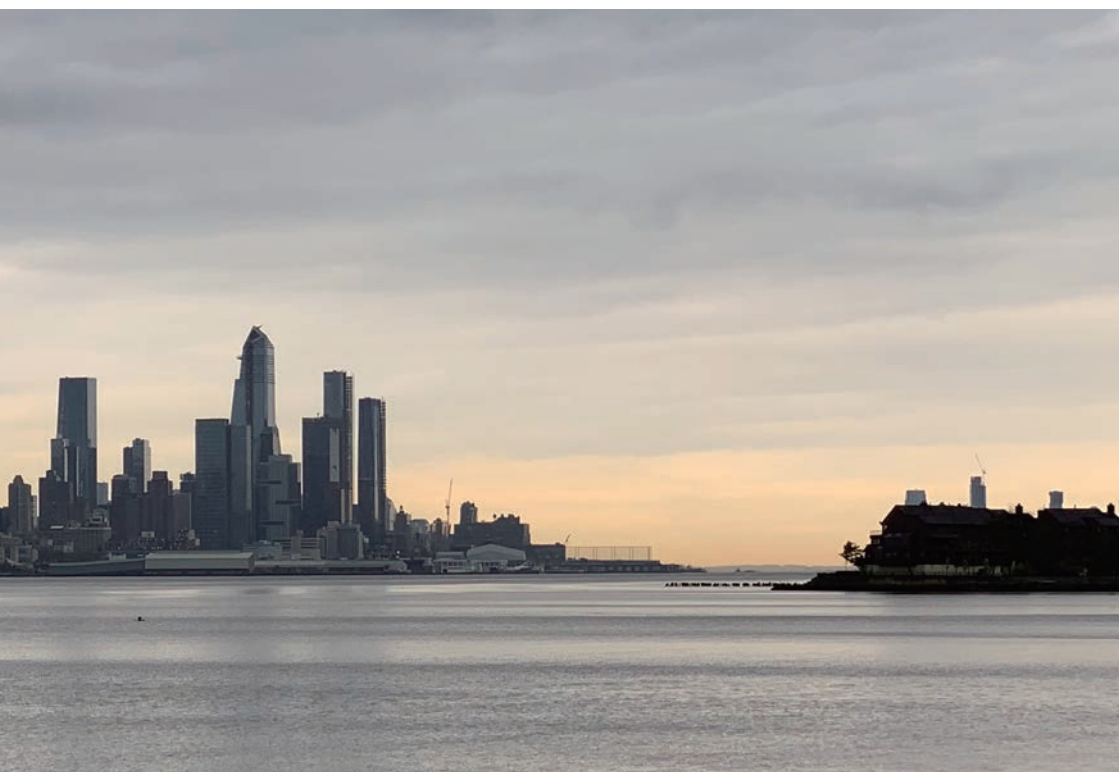
元のこの地球よ、ありがとう。

すべての闇が大転回していく。

苦しみが喜びでした、ありがとうとこの地球  
をあとにしていく。

76

250年後に繋<sup>つな</sup>がる自分の転生<sup>てんしょう</sup>は、本当に厳  
しいものだと感じます。





今世の時間がどれほど恵まれているかも、切ないほど感じます。

だけど、自分の心に田池留吉の波動が意識の世界で芽生え始めてくれている気がします。

肉じゃないと伝えてくれた。真実の波動の世界を伝えてくれた。本当に知りたかった世界を教えてもらった。何があっても250年後に繋いでいこう。

そんな思いが出てきてくれます。

77

250年後を思うとアメリカ、アルバート、次元移行、宇宙と出てきます。自分の中の宇宙と共に必ず必ず次元移行したい。



目を閉じて田池留吉を思い、250年後に思いを向ける。

自分の死後を思う時、いつもは凄まじい濁流のようなエネルギーを感じるのに、はじめて、何とも言えない静かな世界、250年後に向かって真つすぐに伸びている道のようなものを感じました。

普段生活をしている肉の世界、目を開けている世界は、正反対で狂ったエネルギーが吹き荒れていました。

目を閉じれば、こんなにも静かな世界が広がっていたんだと、改めて納得した感じでした。

意識の流れは静かに、力強く、厳然としてあるということ、ほんの少しですが、心で感じさせていただきました。

田池留吉との出会いがすべてでした。待つて待ち続けた本当の喜びと温もり、本当の自分との出会いが今世ありました。

宇宙を思う瞑想をすると、この出会いをありがとう、田池留吉が伝えてくれている温もりに帰りたい、帰ろう、自分の叫びが素直に出てきてくれます。とつてもあたたかいです、そして嬉しいのです。何ともいえない喜びと温もり。

小さくても心に灯ったこの喜びを、250年後の自分に、そして250年の間肉を持つ自分に繋いでいこう、大きく大きくしていこう。それが自分にできる最大のやさしさだと感じます。

250年後までの転生の中、真実を伝えてくれる肉との出会いがない、セミナーもない来世の自分が待つているのは、この喜びと温もり。

250年後を思い、自分のために今できることは、田池留吉・アルバート、母なる宇宙を思う瞑想です。

「田池留吉を思い、その喜びとありがとうを心にどんどんどんどん広げていきなさい」

田池留吉のメッセージは本当にやさしかったんだと、250年後を思うと心に響いてきます。

80

250年後

あー嬉しい、アルバート！嬉しい！

少し前までは、自分の中では、250年後が少し遠かった。自分の中では、250年後の前に、宇宙が広がっている感じがする。

最近、宇宙に向ける瞑想が本当に嬉しい。どんなにこの時を待っていたか、嬉しい、嬉しい、

嬉しいです！どんどんこのエネルギーを出して出して出していきながら……、あー、250年後を迎えます。私は、このエネルギーと向かい合いたかった。ありがとうございます。

250年後は、喜びなんです。肉ではわからない、肉の感じは伝わってこない。意識、意識、と伝わってきます。私たちは意識。その喜びを吹き上げていきます。ありがとう、タイケトメキチ、アルバート！

81

250年後の私に、「私は意識です」の思いをつないでいきたい。



NY マンハッタンを歩く



250年後に思いを向ける。頭では分からないけれど、心の中に響き来るものがある。

思いを向けられること、そのことが嬉しい。

250年後を思うことで、今の自分に存在する全ての思い、過去世、今、転生てんしやうの思いに出会う。一緒に存在しているそんな感覚があり、250年後に繋がつなっていることを感じる。

自分の心の中に全てが一緒に存在して、250年後と思うと繋がつなっていることを感じられる。

苦しい思いもいっぱいあるけれど嬉しい。

思えることが嬉しい。

はい、250年後、苦しい苦しい爆発しそうな

苦しみを抱かかえて私は生まれてきます。今度こそ、

今度こそは、と泣き叫びながら懇願こんがんし肉をもらいます。今、私の250年後はとても苦しいです。

狂いに狂った心で荒れ狂っています。今のままでは250年後、次元移行の号令にのることはとてもできない、厳しさを感じます。もつと真剣に学び（自分）と向き合ってくれ、250年後の私が待つて待つて待ち構えている。しっかりと心を繋いでくれと待ち構えている。そんな思いが伝わってきました。

250年後を思つて瞑想をしたら「お母さんに産んでもらった」と喜びでした。



場所だと言います。墓地ばかりか処刑場でもあり、ニューヨーク港に入った奴隷船から逃亡した奴隷が、この木で絞首刑にされたのだと言います。

アメリカ南部なら、なるほどと思うのですが、奴隷解放の発信地・ニューヨークで黒人奴隷の私刑<sup>リンチ</sup>となると、どうもピンときません。しかし調べてみると、18世紀のニューヨーク港は奴隷貿易の中心地だったのです。ウォール街の突きあたりに、サウスストリート・シーポートという栈橋がありますが、当時、この辺り一帯が奴隷市場として賑わっており、現在のハーレムあたりは一面のサトウキビ畑で、ここで働かされる黒人奴隷も多く、当時、ニューヨークの黒人人口は、南部奴隷州よりも多かったと言います。ただ南部との大きな違いがあります。19世紀に入ると、黒人でも市民権が得られ、農場の所有権まで持つことができ、ニューヨークの黒人人口の3分の1が自由市民になっていたのです。

当初は、ニューヨークも奴隷貿易、奴隷経済で繁栄したのは間違いありませんが、その後、ニューヨークは、黒人奴隷にも自由が約束される「開けたアメリカ」として歩み始めていたのです。

あたかも、それを象徴するかのように、このワシントン・スクエア公園の近くに「クーパー・ユニオン」という芸術関係の私立大学があります。この建物の地下にある「グレートホール」で、リンカーンの奴隷解放に関する重要な演説「クーパー・ユニオン・スピーチ」が行われました。このクーパー・ユニオンから奴隷解放への第一歩が踏み出されたのです。







5年程前のことになります  
が、当時、ニューヨークに在住  
していた澤田敏夫さんに案内し  
ていただき、このワシントン・  
スクエア公園を散策したことが  
あります。その日は天候もよく、  
凱旋門の下ではピアノを運び込  
んでのパフォーマンスがあり、

芝生の上ではペットの犬と戯れながら画板に絵筆を走らせるアーティスト  
の姿がありで、本当に長閑な絵に描いたような風景が広がっていました。

その長閑さを暗い陰が覆いました。澤田さんの指さす方向に見上げるよ  
うな榆の木があります。その巨木は公園の風景に溶け込んでおり、普段な  
ら何の関心も向けず通りすぎてしまうところですが、澤田さんが立ち止ま  
り、その木の遙かてっぺん近くを指さしました。そこにはこの木の名前でも  
記しているのでしょうか、小さな表示板が打ち付けられてありました。  
その看板は、肉眼では読めないような高みにあり、そこでiPhoneを望遠鏡  
代わりに目いっぱいズームを効かせ、パチリ——その画像をさらに拡大し  
てみると、「English Elm」、つまり  
イングリッシュ・エルムと言わ  
れる榆科の高木と表示され、その  
下に小さく「Hangman's Elm」と  
書かれています。ではこの穏やか  
ならぬ「首吊りの榆の木」とはど  
ういう意味なのでしょう。

澤田さんは、この辺りがかつ  
ては湿地帯であり墓地があった



「くそつたれ！くそつたれ！ブラックで悪いか!! アルバートぶつ殺してやる!! 苦しい苦しい苦しい!! 肉をください。私の宇宙を変えていきたい。おかさんに帰りたい！帰りたいんだ！」

250年後、私はこの思いとともに肉を持ちます。

「あんたとは又会うな」田池先生が亡くなる3か月ほど前に電話で伝えて頂いた。

「はい」と言えない私がいて、信じられない思いが苦しかった。みんな肉で掬<sup>とく</sup>えていたからだ。

今、250年後に向ける瞑想が少しずつ楽し

くなってきた。後押ししてくれた文言も大らかに

に心いつぱいに広がっていく。あの時「はい」と即答できなかった愚かな肉にも、ありがうとでてくる。

私を繋<sup>つな</sup>いでくれた母の思いが感じられて嬉しい。アルバートと出会うストーリーが心にある幸せ、私のものだ。その度に250年後に繋いでいく今がほんとうに正念場だと痛感する。250年後に存在するのは私次第、今もこれからも。

セミナー前に向けた時、「待っています。待っています」と優しい思いが上がつてきましたが、セミナー後に向けると、「ありがとうございます。ありがとうございます」と嬉しい思いを感じました。

88

「待っています」嬉しかったです。  
ありがとうございます。

89

ズーム「死ぬまで瞑想」参加してとても嬉しい  
です。250年後に向けての瞑想の時はただ嬉  
しいです。250年後に、肉を持つて次元移行  
へと、という思いが、過去世と一緒に、ともに  
必ず母なる宇宙へ帰ろう、その為に今世肉を頂  
いてきたと、愚かな肉にも伝わり、その喜びが  
感じられるようになり、嬉しいのです。肉ではな  
い、波動・喜びなんだと、肉という思いはただ  
苦しいだけだと、思えるようになった。感じます。  
それに気付いた事が、良かった、生まれてきて

良かったと、喜びの中にあっただと、それを  
伝えて貰った事に感謝です。田池先生、塩川さん、  
ありがとうございます。そしてUTAブックの  
スタッフの皆さんに感謝です。

90

「250年後」  
苦しみの私が、地獄の奥底の私が、  
田池留吉を、アルバートを呼んでいる。  
呻きながら、呼んでいることが、うれしい。  
うれしかった。

91

6月末から1ヶ月ほど右足の太ももから足首ま

で激痛が走り、立つことも這うことも出来なくなりました。その時の痛みから伝わってきた思い、自分の思い、が今も嬉しくて心にしつかりと残っています。激痛に悲鳴を上げている自分、お薬を欲しがる自分、しかしそれだけではない自分が自分の中から突き上がってきたんです。

この激痛、肉体細胞を通して私に伝えてくれている。こっちだよ、こっちだよと、厳しいけれど優しい、自分が自分に伝えてくれている。ちよつと思っている思いがどれだけ傲慢か、足の疼きは心の疼きだと思いました。

意識の流れはすべてに力強く喜びで呼びかけてくれている。自分のこれからの転生、250年後、アルバート、次元移行に繋いでいくには意識の転回しかない。

苦しい苦しいとしか言いようがなかった過去たち、今世やつとやつと巡りあった真実のぬくもりの波動、田池留吉、アルバート、母なる宇宙の意

識の世界にともに帰ろう、帰れるんだ、帰ろうと250年後の自分に心馳せていきます。語らせていただきありがとうございます。

92

温もりに帰りたい、愛に帰りたいと自分の中の宇宙が叫びだします。

心強い思いです。暗黒の宇宙にしまい申し訳なかった。それでも信じて待ち続けてくれている思い。

田池留吉、アルバートとともに愛に帰る意識。嬉しいです。ありがとうございます。

93

アルバートを殺してやる！

その思いとともに、アルバートに出会いたかった。

母なる宇宙に帰リたかったのだと思いました。

94

アルバート

嬉しいです。

95

瞑想した後、嬉しくて喜びました。

96

目を瞑つたら、アルバートが深刻な顔をして人生を悩んでいる姿がなんか響いてきました。いい波動を感じながら近づいていきたいなと思いました。

ありがとうございます。

250年後の私が待つてくれている。帰つておいで、帰るんだ帰るんだといつもいつも伝えてくれている。千載一遇せんざいいちぐうのチャンスを得て、ただだけ幸せものだったか、環境のろを呪い、何故こんなところに産んだんだとお母さんを恨うらんできたけれど、ああ良かった、良かった。お母さんありがとうございます。250年後の出会いを逃のがさぬよう、意識の転回に努めます。

間違っ、間違っ、間違っていた。お母さん、私は間違っ、間違っ、間違い続けてきた。お母さんごめんなさい。

会いたかった、会いたかった、会いたかった。アルバート、アルバート、アルバート、アルバート。

250年後に向けた時に出てくる思いは、

「250年後、喜びで待っています。」です。自分が自分に送る、そのメッセージが喜びで、嬉しさが伝わってきます。その呼びかけに<sup>こた</sup>応えていきたいと、愚かな肉も感じています。

「苦しい、苦しい。今やるしかない」という思いです。

ありがとうございます、ありがとうございます。やっとやっとやっと出会えた田池留吉、アルバート、母なる宇宙。

<sup>よど</sup>汚しまくってきた宇宙とともに、この時この出会いを待つて待つて待ち望んでいました。

愛、心のふるさと母なる宇宙。

嬉しい、嬉しい、ただ嬉しい。

何にもなくても初めから幸せでした。

幸せだった。





NJ フォートリー・独立戦争の砦跡にできた公園

こんなにも大きくて温かい温もりに包まれていたことを感じ、ただただありがとうございます。

101

セミナー会場で仲間の人達と共に、250年後に思いを向けました。

お母さんに生んでいただいたこと、生んでいただくことがただただありがたくて、涙が込み上げました。

そして心を見ていけることが嬉しいと感じました。ありがとうございます。

プリンストンとその周辺地域には、多くの人々が住んでいた長い歴史があります。「オリジナル・ピープル」を意味するレニ・レナペのネイティブ・アメリカン部族は、何千年もの間（1 万年以上という説もあります）この地域に住んでいました。彼らのテリトリーは、ニュージャージー州、デラウェア州、ニューヨーク南部、ペンシルベニア州東部が含まれています。もちろん、ヨーロッパの植民地の侵略後、レニ・レナペは 1600 年代に彼らの土地から追い出され、プリンストンは 1683 年までに様々なヨーロッパからの植民者が定住することになりました。

プリンストンはイギリスのウィリアム 3 世に敬意を表し「プリンスタウン」と名付けられ、1756 年には、もともとニューアークに位置していたニュージャージー大学の本拠地となり、現在はプリンストン大学に改称され、コロニー最大の学術ビルであるナッソーホールに大学全体が収容されました。

数年後の 1765 年、イギリスの支配を打倒する植民地反乱（独立戦争）がおこり、1777 年 1 月、プリンストンの戦いは、ジョージ・ワシントン将軍率いる革命軍の勝利を決定的なものにしました。

アメリカ人は、この時までイギリス人にかなりひどく負けていましたし、軍の士気は常に低かったのですが、プリンストンでの勝利の後には士気が高まり、彼らは戦争に勝つかも说不定と信じ始めたのです。

1 世紀後、英国の歴史家ジョージ・オットー・トレベリアン卿は、プリンストンでの勝利について、「世界の歴史に大きく、より永続的な影響を及ぼす短い時間を、これほど少ない数の男性がなしえたとは驚嘆すべきことだ」と、アメリカ革命に関する研究に書き記しています。

興味深いことに、独立宣言の署名後、そして 1783 年の夏に、大陸会議はナッソーホールで会合を開き、プリンストンは 4 ヶ月の間、アメリカの首都となったのです。

（訳は自動翻訳結果を要約したものです。）

### History:

Princeton and the surrounding area has a long history of being inhabited by many people. The Native American Tribe of Lenni-Lenape, which means “Original People”, had lived in the area for thousands of years, some texts cite 10,000 years or more. Their territory included New Jersey, Delaware, southern New York, and eastern Pennsylvania. Of course after the invasion of the European colonials, the Lenni-Lenape were driven from their land in the 1600s and Princeton became settled by various European immigrants by 1683.

It was named Prince-Town in honor of Prince William III of England, sovereign prince of Orange- Nassau. In 1756 it became the home of the College of New Jersey, which was originally located in Newark, -now renamed Princeton University - with the entire college housed in Nassau Hall, the largest academic building in the colonies.

A few years later in about 1765, the colonies no longer want to be controlled by the British. The colonial revolt to overthrow British rule in the Americas occurs about this time. During the American Revolution, the Battle of Princeton, fought in a nearby field in January of 1777, proved to be a decisive victory for General George Washington and his troops.

During the struggle for American Independence, it was the victory at this battle that was the turning point for the Americans in the Revolutionary War. The Americans were losing quite badly to the British up until this point and army morale was at an all time low, they were losing men left and right. But after the victory at Princeton, morale rose and they began to believe that they might win the war. A century later, British historian Sir George Otto Trevelyan would write in a study of the American Revolution, speaking of the impact of the victory at Princeton, that “it may be doubted whether so small a number of men ever employed so short a space of time with greater and more lasting effects upon the history of the world.”

Interestingly, after the signing of the Declaration of Independence, and during the summer of 1783, the Continental Congress met in Nassau Hall making Princeton the country's capital for four months.





NJ、独立戦争最後の戦場となったプリンストンの古戦場  
当時から建っていた農家は、今では史料館となっている。





実用的な利益は、多くの場合、最も基本的なレベルで純粋な学術研究から生じるが、そのような利点は保証されず、予測することはできません。彼らが究極の目標と見なされる必要もありません。未知の領域へのベンチャーは必然的にリスクのエLEMENTを伴い、科学者や学者は最終製品の考えによって動機づけられることはめったにありません。むしろ、学術的な問い合わせの特徴である創造的な好奇心に感動します。

- エイブラハム・フレックスナー 創業者

1930年、プリンストン高等研究所が設立されました。それは国の学者のための最初の研究施設であり、設立する際の指導原則は、独自の知識の追求でした。研究者は教える授業がなく、研究は決して契約も修正もされません。自分の目標を追求するのは、一人ひとりの研究者に委ねられるのです。

創設者は、アルバート・アインシュタインを最初の研究者の一人に招待しました。アインシュタインは1933年から1955年に死去するまで研究を続け、彼によって研究所は世界で最も有名な研究センターとなりました。研究所は、彼が何の圧力もなく研究できるように寛大な資金を提供し、ここに

いる間、アインシュタインは統一されたフィールド理論の目標を追求しました。

私がプリンストンに惹かれたのは、アルバート・アインシュタインが彼の後半生のすべてを、この地で送ったためです。彼がここで人生の最後の20年間を過ごし、宇宙と時空に焦点を当てて多くの時間を費やしたという事実は非常に興味深いものでした。宇宙と宇宙に関して、私は何か無形の引力のようなものを感じたのです。

(訳は自動翻訳結果を要約したものです。)



プリンストン高等研究所



## Institute for Advanced Studies: Albert Einstein

“While practical benefits often result from pure academic research at the most fundamental level, such benefits are not guaranteed and cannot be predicted; nor need they be seen as the ultimate goal. Ventures into unknown territory inevitably involve an element of risk, and scientists and scholars are rarely motivated by the thought of an end product. Rather, they are moved by a creative curiosity that is the hallmark of academic inquiry.”

-Abraham Flexner, Founder

In 1930, the Institute for Advanced Study was founded. It was the first residential institute for scholars in the country and the guiding principle in founding the institute was the pursuit of knowledge for its own sake. The faculty have no classes to teach and research is never contracted or directed. It is left to each individual researcher to pursue their own goals.

The founders invited Albert Einstein to be one of its first faculty members. He served as a faculty member from 1933 until his death in 1955. Through Albert Einstein, the Institute became the most famous research center in the world. The Institute provided generous funding so that he could pursue his research without pressure. While here, Einstein pursued the goal of a unified field theory.

I was drawn to Princeton because of Albert Einstein and the work that he did and continued to do here. The fact that he spent the last 20 years of his life here and spent much time focused on the universe and space-time here was very intriguing. I felt something intangible pulling at my heart regarding space and the universe here.



Institute for Advanced Study

102

お母さん、お母さんありがとうございます。約束を守ってくれてありがとうございます。うれしい、お母さんありがとうございます。

嬉しい思いが込み上げてきました。

103

田池先生と出会ってから35年になります。先日、昔の田池先生のセミナー映像をみていたら、いつものように、あー！この時もつと学びを理解していたらなあつと後悔してまた自分を責め始めたとき、今の自分が、その時の自分に「分からなかったんやねー。一生懸命分かろうとしたけど、何が

104

間違ってるかも分からなかったんやねー」って、その時の自分をはじめて愛しいなと、優しい思いで受け入れられた感じが嬉しかった。

250年後、この先の自分がこんな感じで、待っていてくれると、信じて心を見ていきます。

250年後を思う

アルバートと繰り返し心の中に呼びかける……ぬくもりがだんだんひろがっていくのを感じます。

幼子の私が田池留吉の胸に飛び込んだ体験を思い出します。

飛び込んだ瞬間、そこは宇宙空間でした。肉体は無い。でも確かにそこに存在していました。同じ存在でした。

あなたも私も同じ、一つですと田池先生の言葉を思いました。

ともに暮らしている家族が一人、二人と亡くなり、淋しさの中にうずくまる日々でした。

淋しい心と瞑想していると、あなたの勉強やで、と心に響いてきました。暖かなぬくもりを感じました。

何のために生まれてきたのか……多くの意識たちと共に母なる宇宙に帰りたい。

お父さんお母さん生んで下さってありがとうございます。

ございます。こうして肉体を頂いてこの学びをさせて頂いていることが幸せです。心で感じたことを信じて進んでいきます。



105

向けると大変な感じがしましたが、それくらいだったので、10月3日に使われたポッドキャスト199回の音声を聞いてしたらどうだろうと思いい、2回してみました。

1回目、250年後の思いが必死に今の私に心の向け先を教えてくれているような気がした。

2回目、250年後の私が待っているんなやな

あと思った。

自分に心に向けていこうと思う。

真実を求め走り続けていた私は、田池先生とやっと出会うことができ、わき目も振らずに、喜び喜びでセミナー会場へ一目散。いちもくさん胸からドロドロとしたものが出てきたような感触にびったり、呑み込み抑え込んでいた私に、隣に座っていらした方が、異語？出していたよ。と言われた。何故か分からないけれど、これまでやらなければならなかったことを、やらす仕舞いにしてきた自分を責めていた。そして肉の自分をチャンとして、再びタイケトメキチに挑んだ。いんどするとタイケトメキチの目を見たとき、跳びかかったと思ったら、風に吹き飛ばされる枯れ葉そのもの、何？これは人間の動きじゃない、長年飼っていたワンちゃんと同じ駐車で雪遊びをしている自分だった。喜び喜びの世界でした。こんな世界があるのだろ

うか。天にも昇るような有頂天うちようてんでした。

なぜ、こうなるのかという問いかけに、答えを見いだせないまま、真つ黒と知りつつ、意識を見てしまった。気が付くと闇の中にどつぷりつかっていた。そこで襲い来る不安、死への恐怖、狂ってしまうのではないかと。

いつも仏壇に向かって祈りをしている母の後姿を見下してきた私は、助けてと母に寄り添うと、跳ね返されると思いきや温かく受け入れてくれた。

これで、250年後の私をやっと迎え入れることができる。暗い夜に寒さをしのぎ、うずくまる自分、時にはゴミ置き場に行くことも。それでも私の目の奥には、一点として留め置いている信があり、その信を失うことなく、アルバートの波動を感じ、出会う。そして、アルバートの目の奥

に、タイケトメキチを確認すると、ふるさとのメロディーが聞こえてくると狂わんばかりの喜びと雄叫びおたけをあげていました。

107

250年後の未来の自分は、ペパール、エランチー光教会の牧師として沢山の学びの友を待っています。

この時私は男性です。

私は、アルバートに出会います。アルバートの目の中に田池留吉の目を見ます。

108

10月志摩セミナーの1日目、波動の勉強で、「こ

れまでの苦しい現象は、すべて喜びだったんですね！」

心の底からその思いが吹き上がってきました。今世の自分、過去世の自分たちが総動員で叫んでいる感じでした。わたしのおおきな分岐点ぶんきてんになりました。

苦しい現象、天変地異を受け入れられず、「くそくそくそ！」とやってきたけれど、やっとさかさまを生きてきたんだと思いました。

天変地異は喜び……と来世の自分に伝えたい。過去世の自分、今世の自分、いくつかの来世、250年後の自分がともに歩いていく。

田池留吉と出会えた今世の自分が動員していく。肉もつてこの学びをしていく喜びがあふれてきました。

突きあがってきます。瞬時にエネルギーが自分の中から突きあがってきます。表現するのが不可能なエネルギーが自分の中から湧き出てきます。

ただただ広がる、こんなものじゃない、もっと広がっていく。すごい、嬉しい。

私は今肉の生活が忙しいです。仕事も家庭も充実して楽しく日々を過ごしています。それがこの学びをする上でコンプレックスでもあります。

このままでいいのか。  
肉に流されていないのか。

ただ250年後に思いを瞬時に向けるとそんなちっぽけな悩



フォートリー砦跡の鹿

みが吹っ飛ぶ感覚です。肉の喜び、幸せと、意識の世界、本当に全くもって次元が違うものだということが伝わってきます。まだまだこんなものではない、どこまで続くのかと思うほどの喜びのエネルギーが自分の中に溢れ出てきます。250年後までの道信じて歩んでいきます。

緊急に原稿を募集する、という項目を見たとき、これは私の為だと思いました。

というのも、その同じ日、3日に、NYに又帰ってきたからです。この学びに出会う前から、どうしても、NYという思いがずっとあ





# プリンス トンの 子どもの本の フェスティバル



りました。そして、私は、肉を運び、飛行機の中で、この学びを紹介されたのです。

250年後は、私にとって、250年後ではなく、今、今世だったのです。強い強い思いに突き動かされて、不可能とも思える肉の現実が、変わってゆきました。N Jにずっと住み、何と心地よかった事か、来世は、今世であり、今世は、来世でした。

ここにいるとき、肉を忘れて、意識のままに生きられる感じがあります。田池留吉に出会えた、今世、かつてない人生です。どこを向いて良いのか分からなかった私が、心を向ける先を教えていただいた。肉ではない意識である事を、はつきりと伝授された。

どれだけ、どれだけ、私の心が、軽くなった事でしょう。どこまでいっても、いつまでたっても、心が納得出来なかった、この私が、田池

留吉を理解するのに、時間はかかりませんでした。一瞬のうちに、私は、この人だ、と感じました。もちろん、その後、長い学びの過程は続くのですが……。

同じ出会いが、250年後にもあると感じます。アルバートの目を見て、一瞬のうちに全てを思い出します。今世、この日本で、学んだ事、そして、次元を共に超えていくこと。

宇宙が待っているからです。愛に帰る事を、待っているからです。真つ暗闇の全てが、待たれているんです。私の真つ暗闇の宇宙も、世界の真つ暗闇の宇宙も、全てが、断崖絶壁だんがいぜつぺきの淵に立っている。それが、250年後。もう引く後なし、というところで、私はアルバートに出会います。

意識を信じて、この心を信じて、その羅針盤が、心の中にある事を信じて、私は手探りで、しかし、必ず出会います。それが、私が描いてきた意識

の流れです。待っている、待たれている、ああ、宇宙が、愛に満たされていく……何もいららない、この心だけで。

喜びが、爆発します。そして、全ての悲しみ、過去、救われなかった思いの数々が、一瞬のうちに愛に変わってゆきます。この宇宙は、愛に満たされていたからです。その宇宙に帰ってゆくだけです。アルバート、愛の中枢ちゅうすう、ああ、本当に本当に長い旅でした。しかし、今はそれもあつという間の出来事のように感じられます。次元移行の後も又続いてゆく、意識の变革を感じるからです。宇宙船が、グーウンと、近寄ってきて、又、旅立っていくように……。

嬉しいです。本当に、ありがとう、間違って、間違ってきたけれど、この喜びは予想以上です。本当に、ありがとう。お母さん、ありがとう。地球よ、ありがとう。私達は、愛。愛の宇宙に帰ってゆく意識でした。



エッジウォーターのカナダ雁

東部や中西部は白人が主でした。南部にはまだ白人至上主義の人たちが多くいました。彼らは黒人だけでなくすべての有色人種を嫌っていました。西部に移ると、東部では考えられなかった白人と黒人のカップルを見かけるようになり、驚きました。特にカリフォルニアはアジア系の民族も多く、人種のるつぼのようでした。

東部はすべてに保守的で仕事上の取引でも新しい取引には相当時間がかかりました。西部ではすべてが早くて、新しい取引を始めるのも早いですが、無くなるのも早いという感じでした。

アメリカは出生地主義でシカゴで生まれた次女は米国籍と日本国籍を有することとなりました。

片や、違法滞在で捕まらないよう住居を転々として暮らす人たちもいました。ただ幸いなことにその人たちの子供はアメリカの学校に通っていました。アメリカの懐<sup>ふところ</sup>の広さだと思いました。







かつて私は勤務先より、アメリカに転勤になり、シカゴで6年、ロスで5年勤務し、ニュージャージーにも10か月滞在しました。

アメリカ勤務では、業績のプレッシャーはありましたが、日本勤務で感じたような人間関係の煩わしさは全くありませんでした。皆と仲良くして、助けあうというようなどこはありません。その代わり、

自分の責任を果たしていれば何も言われませんが、失敗の責任は自分で負わねばなりません。

アメリカ生活では、何をしようがどんな服装でいようが、誰も何も言いません。全く自由です。多民族、多宗教の国ですから、自分たちと違う人がいて当たり前で、人と違うということを気にしなくていいのです。

ただ人種での傾向はありました。4歳と1歳半の子供を早期教育の保育園に入れましたが、ほとんどの子供が日本人かユダヤ人でした。日本人とユダヤ人は、子供の教育に熱心な人種なんだと思いました。又、どんな小さな田舎町に行っても中国人の経営する中華料理店はありました。中国人の逞しさを感じました。



おわりに

二五〇年後が待ち遠しいです。今が二五〇年後、二五〇年後は今、意識

の世界はそうなんですけれど、けれど、やはり地球上の肉の時間を経て、互いに肉という形を用意して、そしてそこから発信していく喜びと幸せを味わい尽くしていこうというのが意識の流れの計画の一端いったんです。

様変わりに変わっている地球という星にありがとうの思いを込めて、そして私達はさらに世界へ旅立っていきます。

苦しい転生てんしょうもすべてにありがとうの思いを伝えて、そして私達が目指す先、それはさらなる愛の世界です。限りなく限りなく広がっていく喜びと温もりの中へ、ともに行こうという合図で一斉に飛び立っていきます。

ただただ嬉しんです。三次元最終のお勉強をしつかりと遂行すいこうしていくために、こうして、今、肉を持って学ばせていただいている私達です。今世をありがとう、本当にありがとう、肉に塗まみれてきた愚かな自分にただただその思いを伝え続けていくこ

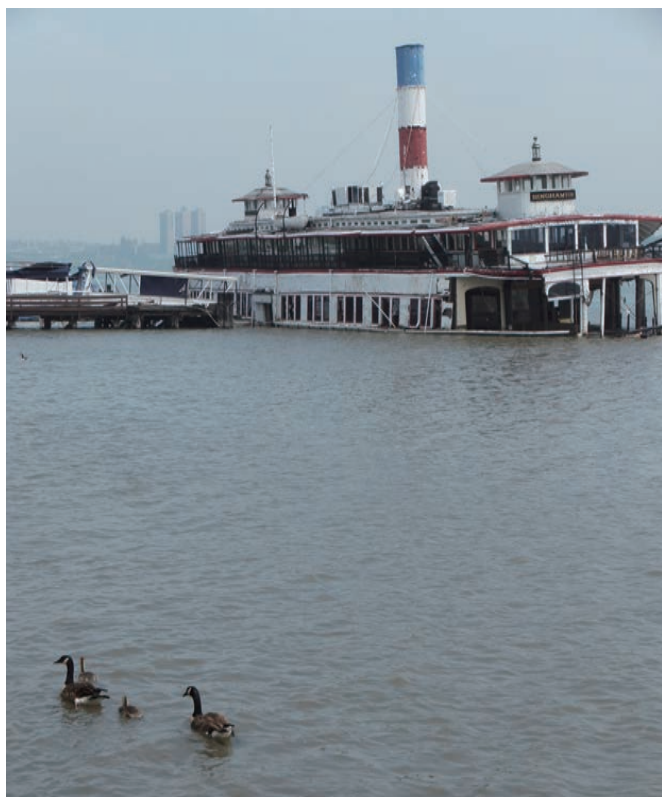




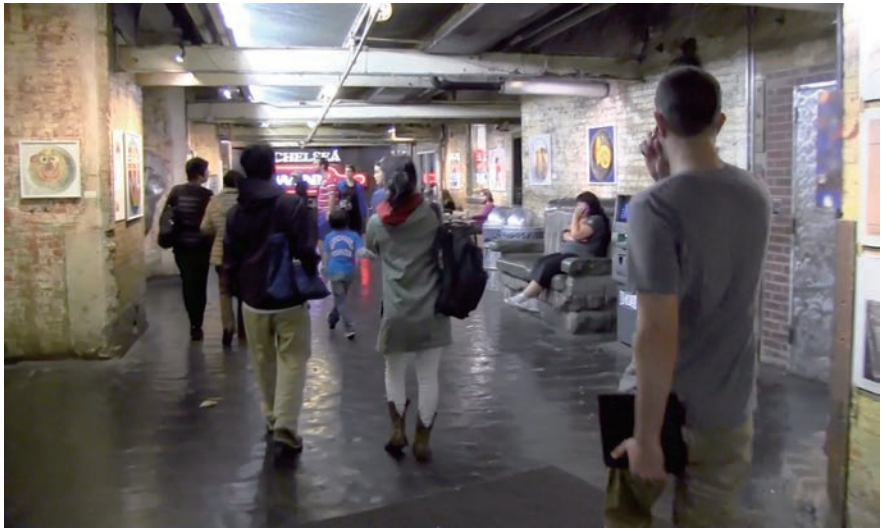
れからの時間です。

どんなに形の世界が崩れ去っていても、たったひとつの世界に私達は生きていることを、心にしっかりととはつきりと感じていく学びをしていきましょう。

(塩川香世)



2007 年までハドソン川でレストランとして営業していたビンガムトン号。その後、安全面から営業停止となり 2012 年、ニューヨークを記録的なハリケーンが襲った際、ハドソン川の氾濫により完全に姿を消すに至りました。



マンハッタン、チェルシーマーケットを歩く。

## 250年後 In 250 years

初版発行 2019年12月8日

編集 U T A ブック編集部  
発行 一般社団法人 U T A ブック  
TEL 0745-55-8525 FAX 0745-55-8440  
印刷・製本 モリモト印刷株式会社

© UTA-BOOK, Printed in Japan 2019

